

特 61
900

耶蘇基督降生二千八百九十九
信徒之寶盒抄略

東京大司教伯多祿瑪利亞出版認可



信徒之寶盒抄略

緒言

此書の著者レオナルド、ゴフネ子氏 (LeR. P. Leonard Goffine) は、千六百四十八年、獨逸國
コロギニ市 (Cologne) に生れ、千六百六十九年、
同國ウエストフッリー州 (Westphalie) なるステ
インフェルド (Steinfeld) の修院に入り、爾後銳
意教勢の振興につくす所あり、終に千七百

三
十九年、現世の任務を了りて靈を 天主の
聖手に返し奉つりぬ。氏著書數卷あり、此
書亦その一にして、朝夕の日課、周歳の主
日、主要なる祝日及び其註釋訓誨等を纂め
たるもの也。同國及び瑞士等の公教徒は單
に之を「ゴフネ」と稱び、聖福音書、聖主
遵範等と並び稱して尊重すと聞く。予が茲
に譯せしは、書名を「Le Trésor du Pieux Fidèle」と題
して全書の佛譯なり。其中に就て唯、主日

及び主要なる祝日に於ける祈禱文のみを取
り、他の註釋訓誨等は一切須臾抄略に従ひ
ぬ。期すらくは他日機を得て、更に其全部
を譯出し、以て愛兄愛姉の清誦に供するお
らんことを。

省みるに予や素より文に嫻はず、且横文
に熟せず、而も肯て漫に筆を、此最も端麗
にして崇高、流暢にして森嚴なるべき禱文
に執る。恐らくは金玉の原文を擧て珉碶化

し了り、其資に適はざるもの多々ならん、忸
 怩自ら勝へず、然れども亦私かに信ず、專
 ら達意を旨とし、其原意を失はざらんこと
 には稍、努めたる所ありと。されど猶誤解
 謬譯の個所往々存するあるべきか。此書を
 使用せらるゝ愛兄愛姉よ、之を見出したま
 はゞ、幸に垂教を吝み給はされ、更に全部
 を譯出して世に公にせん日、慎で訂正する
 所あらん。今や稿成り剗剗に附すにあたり

て、茲に敢て名を署すものは、其責を明に
 し、併て請ふ所ある所以也。

天主降生後一千八百九十八年聖母被昇天祝日後第三主日

於 金澤公教會 譯者 多默 工藤 應之 誌

猶一言を加へて讀者各位に諭ぐべきあり、
 抑本書中各福音の條は凡て「聖福音書」に據り
 しかど、使徒の書翰及び舊約書に屬する詩
 篇或は預言書等の條は未だ聖經の和譯成ら
 ざるを以て、止を得ず、今は須臾佛譯のま

六
 よに從ひ、専ら原意を失はざらんことに務め、
 之が直譯を試みたり。然れども他日成るべ
 き和譯聖經其ものに一字一點の差なきは素
 より望み得べきことならず。故に後日聖經
 の刻成るの時、更に訂正する所あらんと期
 す。各位幸に之を諒とせられは幸甚。

譯者 白す

信徒之寶盒抄略目次

○彌撒聖祭普通祈禱文	一頁
○待降節第一主日 <small>即ち傾誕季</small>	二十六頁
○待降節第二主日	三十四頁
○待降節第三主日	四十三頁
○待降節第四主日	五十二頁
○ + 聖誕大祝日	六十頁
○夜半之彌撒	六十頁
○黎明之彌撒	六十九頁

日中之彌撒

芻槽前之禱文

○聖誕後八日間に在る主日

○吾主之割禮

元旦之禱文

○吾主之公現 即ち三王來朝

○三王來朝後第一主日

○三王來朝後第二主日

○三王來朝後第三主日

○三王來朝後第四主日

七十七頁

八十七頁

九十二頁

百頁

百七頁

百九頁

百十八頁

百二十六頁

百三十八頁

百四十七頁

二

○三王來朝後第五主日

○三王來朝後第六主日

○四旬節前第三主日

○四旬節前第二主日

○四旬節前第一主日

○聖灰之水曜日

○四旬節第一主日

○四旬節第二主日

○四旬節第三主日

○四旬節第四主日

百五十四頁

百六十二頁

百七十頁

百八十一頁

百九十三頁

二百四頁

二百十四頁

二百二十五頁

二百三十四頁

二百四十五頁

三

- 吾主御苦難之主日 二百五十六頁
- 聖枝之主日 二百六十六頁
- 聖木曜日 吾主聖体を定め給ふ 二百九十六頁
- 聖金曜日 吾主の御死去 三百八頁
- 聖土曜日 三百三十六頁
- 聖主復活大祝日 三百四十四頁
- 御復活後第一主日 三百五十三頁
- 御復活後第二主日 三百六十二頁
- 御復活後第三主日 三百七十頁
- 御復活後第四主日 三百七十九頁

- 御復活後第五主日 三百八十七頁
- 聖主昇天祝日 三百九十六頁
- 昇天後八日間に在る主日 四百五頁
- 聖靈降臨大祝日 四百十二頁
- 聖振之秘蹟を領けし後の禱文 四百二十三頁
- 三位一體之祝日 聖靈降臨後第一主日の紀念 四百二十四頁
- 聖體之祝日 四百三十四頁
- 聖靈降臨後第二主日 四百四十八頁
- 吾主之聖心之祝日 四百五十一頁
- 聖靈降臨後第三主日 四百六十頁

○ 聖靈降臨後第四主日
 ○ 聖靈降臨後第五主日
 ○ 聖靈降臨後第六主日
 ○ 聖靈降臨後第七主日
 ○ 聖靈降臨後第八主日
 ○ 聖靈降臨後第九主日
 ○ 聖靈降臨後第十主日
 ○ 聖靈降臨後第十一主日
 ○ 聖靈降臨後第十二主日
 ○ 聖靈降臨後第十三主日

六

四百七十頁
 四百七十九頁
 四百八十七頁
 四百九十七頁
 五百五頁
 五百十四頁
 五百二十二頁
 五百三十一頁
 五百四十頁
 五百五十一頁

○ 聖靈降臨後第十四主日
 ○ 聖靈降臨後第十五主日
 ○ 聖靈降臨後第十六主日
 ○ 聖靈降臨後第十七主日
 ○ 聖靈降臨後第十八主日
 ○ 聖靈降臨後第十九主日
 ○ 聖靈降臨後第二十主日
 ○ 聖靈降臨後第二十一主日
 ○ 聖靈降臨後第二十二主日
 ○ 聖靈降臨後第二十三主日

七

五百六十頁
 五百六十九頁
 五百七十八頁
 五百八十七頁
 五百九十五頁
 六百三頁
 六百十一頁
 六百十九頁
 六百二十八頁
 六百三十七頁

- 聖靈降臨後第二十四主日 六百四十七頁
- 聖母被昇天大祝日 六百五十五頁
- 諸聖人之祝日 六百六十五頁
- 在煉獄靈魂之紀念 六百七十六頁
- 聖體拜領前後の祈禱 六百九十一頁

信徒之寶盒抄略目次畢

信徒之寶盒抄略

獨國 レオナルド、ゴフ井子 原著
 日本 藤 應 之重譯
 佛人 アウギュスト、クレマン 校閱



彌撒聖祭を拜するの心得

彌撒聖祭は主耶穌基督御受難御死去の紀念として其功
 徳を人間に施さんが爲に親ら定め給ひし祭なれを、最

も天主の御意に適ひ、且最も我等の靈魂に益あるものなり。されど天主に拜禮を盡し、感謝を奉つり、罪を贖はれ、御恵を蒙らんには彌撒に若くものなし。然れども其益を得んには信仰を厚くし、罪を悔俊め、又萬事に慎むことを甚だ必要とす。蓋は五官に觸れざるも耶蘇は彌撒の時祭壇に降臨り給ひ、其の眞の御躰と御血は麴餅と葡萄酒の形と色に籠りて世の爲めに犠牲となり、人々の靈魂に糧となるに因りてなり。故に視聽を正しくし、他事に心を移さず専ら耶蘇基督を念じ、恰もカルワリオ山にて十字架の傍にありて救世主の苦難

を仰ぎ瞻るが如き心を以て之に與るべし。尙彌撒の中の大切なる部分に與ることを缺くべからず。又假令彌撒の間司祭の誦ふる祈禱と行ふ式の意味を曉る能はずども、聖會及び司祭の爲すがまゝ之に同すること最も肝要なり。

●彌撒拜聽前之禱

『主、耶蘇基督、我若しカルワリオ山にて主の御苦難を見まをさむ、我が腸哀傷の爲に斷べし。今此の祭壇にて行はれんとする祭は、十字架の上にて献げ給ひし犠牲と異ならざるものなれど、我をして之に適ふべき思念を起し、

罪の赦免を得、聖心に従はしめ、且主の我等に對ひて茲に復新に示し給へる御苦難、御死去の功德を蒙らしめ給はんことを願ひ奉つる。

●彌撒之始之禱

✠ 聖父と聖子と聖靈の御名に由りて。亞孟。

最も尊き三位一の天主、我主の御名にむかひて拜禮をつくし、感謝をさしげ、罪の赦免と主の慈惠を求めん爲、茲に謹んで彌撒聖祭に與り奉る。願はくは我をして司祭と心を合せて、救靈の犠牲を献げしめ給へ。且我等の爲にカルツリオにて御血を流し、苦を受け給ふを仰ぎ視たる

時に我等の必ず起したらん如き情を今茲に起さしめ給へ。亞孟

司祭祭壇に昇り右方に就て入進誦を讀む時の祈禱萬物の造主にて在す天主、主に造られたる人々を憐み給へ。

慈悲深き父よ、子たる我等の罪を免し給へ。我等の爲に死に給ひし救世主、御苦難の功德を、我等に

得せしめ給へ。人を聖ならしめ給ふ聖靈、我等の心を潔め、愛熱を燃させ、我等を聖ならしめ給へ。

● 榮光之聖歌

『主憐み給へ。』

(三回)

基督憐み給へ。

(三回)

主憐み給へ。

(三回)

(以下は黒色及紫色の祭服を用ふる時は之を誦へず)

天に於ては天主に榮光あれ、地に於ては善意の人に平安あれ。主なる神、天の王、全能の父、我等主を稱へ、主を崇め、主の榮光の大なるが爲に肅んで感謝し奉る。拜すべき耶穌、御父の獨子、萬物の主なる神、世を潔めん爲に天主より遣はされし羔、我等を憐み、御慈悲の眼を

天より垂れ給へ。主に非ざれむ、我等を救ひ得るものなきに因り、冀はくは我等を救ひ給へ。そは主唯一どり父の榮光の中に聖靈と共に至聖全能にして限りなく拜すべき者にませむなり。』

司祭祭壇の右方に就きて集禱文を誦へ又書翰を讀む時の祈禱

全能の天主、聖母マリア及び今日祝ふ聖人の代禱を聽しめして司祭の求むる恩寵を施し給へ。我れ司祭と心を合せて我が爲め並に我と關係ある人々の爲に祈り奉る。願くは終なき生命に至らしめん爲め必要の恩寵を我等に與

へ給へ。我等の主基督に依りて。亞孟
 慈悲深き天主、御教を知らざる多くの人々の中より我等
 を選みて聖教を示し給ひたれど、我れ心の底より欣んで
 之を承け奉る。預言者及び使徒の口を以て傳へられたる
 御教を守り、謹みて之を全うせんと欲す。希はくは古の
 聖人の如く主に事へ、聖祖の如く主を奉じ、預言者の如く
 主を識り、使徒の如く主を愛し、専ら御跡を慕はしめ給へ。
 司祭祭壇の左方に就きて福音を讀むとさきの祈禱
 主よ、今司祭の讀みあぐる文は、預言者れよび使徒の言
 にあらずして、實は耶穌基督の御言と御行なることを信

じ奉る。假令主の言なりと信するも之に従はざれど何の
 益かあらん。又信あるも愛と善業の功績なくを、主の審
 判の前に争でか罪を免かるべき。我れ今聖言を厚く信じ
 たてまつるが故に、我が行爲の聖言に協はざりしを責め
 給ふなく、却て我が信するところを行ふ力を我に與へ給
 へ、即ち是れ主の御榮光なれど也。

●使徒信經

「我は天地の創造主、全能の父なる天主を信す。又其御
 一子我等の主、耶穌基督即ち聖靈に由りて孕り童貞マリ
 アより生れ、ポンシオ、ピラトの管下にて苦を受け、十

十字架に釘られ、死して葬られ、古聖所に降りて三日目に死者の中より蘇り、天に昇りて全能の父なる天主の右に坐し、彼處より生ける人と死せる人を審かん爲めに來り給ふ主を信す。我は聖靈、聖公會、諸聖人の通功、罪の赦免、肉身の復活、終なき生命を信じ奉つる。亞孟』

● 司祭麴餅と葡萄酒を献ぐる時の祈禱

『限りなく聖なる御父、全能にて在す天主、我みづからは尊前に出る能はざるものなれども、我救主耶穌基督が此祭を定め給ひし時の聖旨と今我が爲に犠牲となりて自己を献げ給へる聖旨に隨ひ、敢て司祭の手を以て麴餅と葡

萄酒の供物を献げ、主が萬物の主宰にて在すことを稱へ、我罪を贖はれんことを求め、總て主の賜なる恩恵を感謝したてまつる。

又我等は罪人にて救はるゝに足らざれども、宥の犠牲とならせ給へる耶穌の功に因りて施し給ふ救靈の恩恵を我が身の爲め、及び我が親族、恩人、朋友、仇敵の爲にも希ひ奉る。又聖公會のため、教父のため、本教區の司教、並に總て靈魂を牧する人々のため、且帝王のため、及び主を信する民の爲に此の貴き犠牲を献げて祈り奉つる。主よ、願くは死せる信者の靈魂を憫み、御子耶穌の功に

由りて、彼等に終なき安樂を與へ給へ、慈悲深き御父よ、此國の上に慈惠を注ぎ給へ。主を惡む者をも棄て給はざれ、主を知らざる者、主を信するも眞の教會に入らざる者、及び總ての罪人を救靈の道へ導き給へ。又我等を惡みて害を加へんとする者にも慈惠を以て報い給へ。我れの彼等に免す如く、我が罪をも免したまへ。亞孟

●序誦

「天使と人との王なる我が救主の格り給ふべき時近づけり、主願くは我心に聖靈を満たし、世を離れて専ら主のこととをのみ念はしめ給へ。嗚呼全能の御父、永遠の天主は何

れの時にても何れの處にても常に感謝し讚美すべき哉。我等の主、耶穌基督に由りて天使は主の尊前に拜禮し、聖人は主を讚美す。今や我等が陋き聲をも之に合せて讚美するを許し給へを、我等歡喜に堪ずして謳歌はん。聖なる哉、聖なる哉、聖なる哉、萬軍の神なる主、主の榮光は天地に充滿てり。天の最上なる處にいます者は尊まれさせ給へ。主の名に由りて來れる者は祝せられさせ給へ。

●司祭典文を讀む時の祈禱

哀憐深き父よ、今獻ぐるところの祭を祝し、聖意に適は

しめ給ひて聖公會を守り、教父、司教及び總の奉教人を
 恵み給はんことを御子基督に依りて願ひ奉る。別ても此
 處に集れる人々及び長上、親族、恩人、朋友、又我等に
 祈らんことを求むる人々を顧み給へ。我主耶穌基督の御
 母、終生童貞なる聖マリア、使徒、殉教者、聖人等と心
 を合せて、我等此祭の聖意に適ふ者とならんことを願ひ
 奉つる。

●司祭麴餅と葡萄酒に掩手する時の祈禱

主よ、願はくは、古への聖人が救世主を望みたてまつり
 し熱心を我が心に充て、其の信仰と愛を我に感せしめ給

へ。主耶穌基督、來り給へ、救世主、來りて其諸の奇跡
 を總括せる妙理を成し給へ、神の羔、世の罪を贖へる貴
 き犠牲は今此祭壇に臨み給ふ。嗚呼有がたき寵愛なる哉。

●聖體奉擧の時の祈禱

救世主耶穌基督、一切の人を救はん爲に十字架に釘られ
 給へる御躰を慎みて拜し奉つる。

救世主耶穌基督、一切の人を救はん爲に十字架の上にて
 流し給へる御血を慎みて拜し奉つる。

●聖體奉擧後の祈禱

全能なる天主、主は此聖式を以て耶穌基督の御受難の苦

十六
及び御復活の榮を我等に追懐せしめ、我等の爲めに傷けられ給へる其御躰と流させ給へる其御血をを、今現に之を祭壇の上に供へ給へり、我之を見奉つれを、奚ぞ御恩恵を忘れて再び主に背くことを肯てせんや。主の自ら我等に與へ給へる此の尊く潔き犠牲を今肅んで尊前に献げ奉つる。古への祭は悉く此犠牲に象りたる者にて、此犠牲獨り善く聖意に適ふ御子耶穌基督の御躰と御血なれを、之を承けて此の聖祭に與かる人々に其功德を蒙らしめ給へ。又聖會と心を同くして死せる信者の靈魂を恵み、殊更我等に關係ある者に此の尊き犠牲に因りて其苦を逃れ

しめ、終りなき安樂を得せしめ給へ。慈悲深き父、罪人なる我等にも此の恩恵を施して、終に主の使徒、殉教者、諸聖人等と共に住み、共に終なく主を愛し、且讚美することを得せしめ給へ。

● 主禱文

嗚呼天主、主の我が父にて在ますことを思へを、誠に幸福なる哉。父の在す天堂の我が住處となるべきことを考ふれを、誠に嬉しき哉。願はくは御名の地上に尊まれ、諸人の心と意思の主に治められんことを、主の子なる我等に靈魂と肉身の糧を與へ給へ。我等が誠心より人に免

す如く我等の罪をも免し給へ。誘惑と世俗の禍害ある時に我等を助け、特に最も恐るべき罪より援ひ給へ。亞孟

● 神羔誦

愛に由りて自ら犠牲となり給ふ神の羔、我等を憐み給へ。

我が救霊の犠牲、我等を救ひ給へ。

天主の怒を和げ給ふ救世主、御父の尊前に恩寵を得させ、我等に平安を施し給へ。

● 聖體を領くるを望む祈禱

救世主耶穌基督、潔く熱き心を以て屢々聖體を領くる者と同じく主に近くを得む、幸福なれども、我は罪人にて

之を領くる能はざることを深く悲み奉つる、願くは聖寵を垂れて我心に臨み、司祭に與へ給ふ恩寵を我にも及ばし給へ。主よ、我が望をみそなはし、我を潔めて早く主を領くるに堪ふる者とならしめ給へ。又聖体の功德に由りて信仰を強め、望徳を増し、愛を以て我心を燃し、純ら主の爲めに生存へて力を盡すことを得せしめ給へ。』

司祭祭壇の右方に就きて聖體領後文を讀む時の祈禱

主は我等を救はんが爲めに犠牲となり給ひたれむ。我らも主の光榮の爲に自ら犠牲とならんと欲し、聖旨のまゝに

我身を献げ奉つる。主の攝理に由りて來るべき苦難を甘
 じ受け、主の之に克ち給ひし如く、我も同じく之に克ん
 と欲す。今彌撒の祭に由りて我心の潔められしを辱く思
 ひ、我が微少の罪をも罪の傾向をも主の除き給はんこと
 を希ふ。又矢て主の誠を守り、之に背かんよりは寧ろ我
 が總ての所有物を失ひ、如何なる苦難にも服せんと決心
 し奉つる。

● 掩祝の時の禱 (司祭黒服の時は之を除く)

「主よ、司祭の手を以て我等の決心を祝し、掩祝の好果を
 常に我等の上にあらしめ給へ。」



● 聖父と聖子と聖靈の御名に由りて。亞孟

● 司祭祭壇の左方に就き終りの福音を讀む時の祈
 禱

聖なる言にて在す天主御子、主は天の道を示さん爲に降
 臨れる光にますを、世は主の眞の救主なるを信せず、又
 主の恵に由りて天主の子となるを好まずして、却て惡魔
 の奴隸となることを善どしたりき。願はくは我等をして
 彼等と同じからざらしめたまへ。主は我等を救はん爲に
 人となり給へる天主にて在ませむ、我之を信じて偏に依
 頼み奉つる。我等が潔められて天堂に昇り、永遠に主と

共に在るを得ん爲めに要する聖寵を饒かに與へ給へ。亞孟

●聖會の爲の祈禱 (誦彌撒の後に誦りて讀)
天使祝詞 (三回)

慶たし聖寵充滿てるマリヤ、主爾と共に在す。爾は女の中にて祝せらる、又御胎の御子耶蘇祝せられ給ふ。天主の御母、聖マリヤ、罪人なる我等の爲めに今も臨終の時も祈り給へ。亞孟
元后、哀憐の母、我等の生命歡樂及び倚頼なるマリヤ、逐滴の身なるエワの子我等、爾に向ひて號はり。此涙の

谷に啼き叫びて只管仰ぎ望み奉る。嗚呼我等の代願者よ、哀憐の御眼もて我等を顧みたまへ。又此逐滴の終らん後、尊き御子耶蘇を我等に見し給へ。寛仁、哀憐、甘味なる童貞マリヤ、天主の聖母、我等の爲に祈り給へ。基督の約束に我等を協はしめ給へ。

祈願

我等の依托と能力にて在す天主、哀憐を垂れ、主に叫ぶ此の民を顧りみ給へ。永福にて原罪なき童貞、天主の聖母マリヤ、淨配聖ヨゼフ、使徒聖ペトロ、聖ポロ及び諸聖人等の傳達に由りて。罪人は改心し、母なる聖會は

自由と光榮を得んことを偏に祈り奉る。願くは我等の主
耶穌基督に因りて、慈悲を以て此事を聽き容れ給へ。亞
孟

大天使聖ミカエル、戦闘の中に我等を助け、魔鬼の兇惡
と謀計に克しめ給へ。天主の彼に命を下し給はんことを
伏して願ひ奉る。嗚呼天軍の總督、靈魂を傷はんとて此
世を徘徊するサタン及び其他の惡魔を天主の力に由りて
地獄へ閉囚め給へ。亞孟

●彌撒後之禱

嗚呼天主、我を夥多の人の中より選みて彌撒の祭を拜せ

しめ給ひし恩寵を深く謝し奉つる。我が拙く卑き身を以
て主の尊前に犯したる罪を幸ひに免し、此祭の功德を以
て既往の心を潔め、將來の心を堅固ならしめ給へ。我れ
今主の聖旨のまに、事に就んとするに當り、其の既に
蒙りたる恩寵を終日忘れず、聖祭の功德を永く失はざら
ん爲め、思も望も言も行も凡て慎まんと決心す。仰ぎ願
くは此の恩寵を下し給へ。亞孟

○待降節第一主日

即ち傾誕季第一日曜日

彌撒拜聽前之禱

(三頁)

彌撒之始之禱

(四頁)

入進誦(司祭々壇に昇り右方)

嗚呼我 天主、我は我靈魂を主に献げ、我身を主に托せ奉るを耻ぢざれを、願くは我仇敵をして我を輕侮せしめ給はざれ。蓋し主の聖佑を求むる者は、辱かしめらるゝことあらざらん。(詩)主よ。我に主の道をしらしめ給へ、主の徑を教へ給へ。

(榮誦)願くは聖父と聖子と聖靈に光榮あらんことを。元始

にありし如く、今も何時も世々に至るまで。亞孟

榮光之聖歌

(祭服の紫色若くは黒色の時は之を除き)主憐み玉へ、基督憐み玉へ、主憐み玉へ(各三回誦ふるに止むへし誦ふ) (六頁)

集禱文 (司祭再び右方)

主よ來り給へ、主の威力を擴めたまへ。我等は聖佑に由り罪科に陥るの危難を免かれ、且主の守護を享くるに由り、謹んで之に酬ひ奉らんことを冀ふ。聖靈と一致して聖父と共に永遠に活き、且統治し給ふ天主にてまします我等の救主に依て亞孟

聖保錄與羅馬人書十三章十一節(誦ふ續べて)

我兄弟よ、視よ今は我等の睡眠より覺むべき時なり、蓋し、我等信仰を受けし當初より、更に我等の救靈は近づけり。夜既に闌て晝近づきぬ。然るに我等は晦闇の處業を棄て、光明の鎧を着くべし。饜饉、醜醜、姦媾、放逸、争鬪及び嫉妬に歩まざることを白晝に於て適當なる如く、我等は適當なる者を以て進むべし。但汝等、我等の主なる耶蘇基督を着けよ。

昇階誦 (引續きて誦ふべし)

主よ、主の聖佑を待つ處の輩は、未だ曾て其希望を徒ふせられたることあらず。主よ、願くは主の道を知らし

め給へ、主の徑を教へ給へ。

慶哉慶哉、主よ、主の慈悲を現はしたまへ、主の救靈を與へ給へ。慶哉、

聖路加福音書廿一章廿五節 (司祭左方に)

維時 耶蘇弟子等に語げて曰く、「願て日と月と星辰とに異兆顯るべし、海と波濤との鳴轟くが爲に、地上には諸國民狼狽へ亂れて、艱難熾なるべし。人々は全世界に將に來らんとする處の事等を懼れ且期するに因相憔悴ん、天上の權能震搖されるれ也。時に人子が大なる權能と威光を以て雲に乗りて來るを見ん。但し此等の事の起り始

めたる時には、汝等仰ぎて首を翹よ、汝等の救贖るゝこと
 近けれ也。』耶蘇又彼等に譬喩を語りたまはく、『無花
 果樹並に一切の樹を觀よ、今しも果實を自ら産するや、汝
 等は即ち夏近しと知る。斯の如く汝等も此等の事の起る
 を見る時は、神の國已に近しと知れ。我誠に汝等に告ぐ、
 此等の事の皆成る迄は、此民族廢らじ。天地は廢らん、
 然と吾が言は廢らじ。されを汝等慎めよ、恐くは汝等の
 心醉酺と酗酺と今生の苦慮とに専らなるあらん、而して
 夫の日俄に汝等に臨まん、是れ全地の面にすべて居るも
 の、上に網の如く臨むべけれをなり。されを汝等醒寤て、一

切の時に祈禱れ、庶幾くは將に來らんとする此等の事ども
 を盡く逃れて人子の前に立つに堪ふるものとせられん。』

使徒信經
 奉獻誦

(司祭々信經の中央に暇時)(九頁)

主よ、我は我靈魂を主に獻げ奉る。嗚呼 天主、我れ
 偏に主に望み奉る。然を我は屈辱しめらるゝことなから
 ん。願くは我仇敵をして我を輕蔑せしめ給はざれ。蓋し
 主の聖佑を待つ處の輩は未だ曾て其希望を徒ふせられた
 ることあらざる也。

司祭麴餅と葡萄酒を捧ぐる時の禱

微唱禱

主よ、此秘蹟の功徳に由て、我等に祝ふ初頭なる此祝日を能ふ限り有功に祝し得るやう浄め給へ。我等の主基督に依りて謹で願ひ奉る。亞孟。

序誦

(十二頁)

司祭典文を讀む時の禱

(十三頁)

司祭麴餅と葡萄酒に掩手する時の禱

(十四頁)

聖體奉舉の時の禱

(十五頁)

聖體奉舉後の禱

(十五頁)

主禱文

(十七頁)

神羔誦

聖體を領くるを望む禱

(十八頁)

聖體受領の時の誦 (司祭の時也。以下倣之領)

(十八頁)

主は慈悲を以て其賜物を撒き給はん、而して我等の地は其結果を生むん。

聖體領後の禱

主よ、若し聖意に適ひたまは、我等が其救贖の盛式なる祝日を、有功に祝するの準備を爲んやう、聖殿の中に於て、主の愛憐の効果を感せしめ給へ。我等の主基督に依りて願ひ奉る。亞孟。

掩祝の時の禱 (二十頁)

司祭々壇の左方に就き終りの福音を讀む時

の禱 (二十一頁)

聖會の爲の禱 讀誦彌撒の時に限る (二十二頁)

彌撒後の禱 (二十四頁)

○待降節第二主日

彌撒拜聽前之禱 (三頁)

彌撒之始之禱 (四頁)

入進誦

シオンの國民よ、視よ 主の萬民を救はん爲に降臨り

たまひしを。主は其權威ある聲を聽かしめ給はん、而して汝等の心は喜悅をん。(詩) 嗚乎イスラエルの嚮導者にして、群團の如くにヨゼフの子孫を導きたまふ 天主よ、我等に聽き給へ。

(榮誦) 願くは聖父と聖子と云々

榮光之聖歌 (六頁)

集禱文

主よ、願くは主の御獨子に對し諸の道を準備ふるやう、我等の心を獎まし給へ。依て以て聖子の降臨に由りて、我等が汚なき心を以て主に事ふるに堪んことを、限り無く

存在したまふ、聖子基督に依て願ひ奉る。亞孟

聖保録與羅馬人書 十五章四節

我兄弟よ、従前より録されたる所は、凡て我等を訓へて、我等が聖經より受けたる、耐忍と安慰とに由て固き希望を會得せん爲めに録されたる也。耐忍と安慰との神は、汝等をして同一なる心と、同一なる口とを以て、神即ち我等の主 耶蘇基督の聖父を讚美せしめん爲め、汝等に、耶蘇基督の希望に従ひ、互に意見と愛情とを一致せしむるの聖寵を下したまはんことを願へり。是故に神の榮光を顯はさん爲め、基督の我等を納けし如く汝等

も親愛を以て互に納くべし。蓋し我汝等に語はん、イスラエル民の祖先に爲したる契約の成就に於て、神の忠實を証さん爲め 耶蘇基督は、彼等の割禮に付て、准免者及び福音の使者なりき。而して異邦人も亦彼等が享けたる矜恤に付て、神を崇む。録して「主よ、我は異邦人中に在て、主の名譽を公けにし、且主の名の光榮に於て讚美せん、开は是れが爲なり」と有るに符ふ。又「異邦人よ、主の民と共に喜べ」と録し、又他所に「異邦人よ、凡て主を讚美すべし、萬民よ、凡て主を頌すべし」と録せり。又イザイヤは云へり「ジュッセの根苗し、萬民を統

治むる爲に起る處の再出芽あらん、而して萬民之に頼らん」ど。願くは希望を興ふる神の、汝等に 聖靈の權能に由りて其希望を増大ん爲めに、汝等に於て、喜樂と平和を以て汝等を充し給はんことを。

昇階誦

天主は其榮光をシオンより輝かせらるべし、而して其權威を顯す爲めに來り給はん。牲に由て主と共に契約を訂びたる彼聖人等を 天主の尊前に集むべし。

慶哉慶哉、我は彼の「我等は主の宮殿の内に入るならん」と言へる語によりて、自ら慰むるなり、慶哉。

聖馬竇福音書 十一章二節

維時、洗者ヨハネ獄舎にて 基督の行事を聞くと、其弟子の二人を遣はして、彼に言けらく、汝は夫の來るべき者なるか、或は我等他に待つべきや。耶穌彼等に答て曰く、汝等の聞し處、見し處を往てヨハネに告げよ、瞽者は見、跛者は歩み、癩病人は淨まり、聾者は聞き、死者は甦り、貧者は福音を聽かせらると、我に躓かざる者は福なり。彼等の去りし後、耶穌始めてヨハネの事を群衆に語りて「曰く、汝等何を觀んとて野に出しや、風に動かさる、葦なる乎。さらむ汝等何を見んとて野に出し

や、柔かき物を着たる人なるか、視よ柔かき物を着たる人は王の宮に在り。さらむ汝等何を見んとて出しや、預言者なるか、我汝等に告ぐ、然り預言者よりも勝れる者なり。視よ吾が使を汝の前に遣はさん、彼汝に先だちて汝の道を備ふべしと録されたるは彼が事なり。

使徒信經

(九 頁)

奉獻誦

嗚呼、天主、主は我等を顧み給ひ、我等に生命を與へたまひ、而して主の民は主に於て喜むん。主よ、我等に御愛憐を垂れ給へ、主の救靈を與へたまへ。

司祭麴餅と葡萄酒を捧る時の禱 (十 頁)

主よ、我等の献物と其謙遜なる祈願とに由り、聖心を和けたまへ。如何に言を飾るとも、我等の身に寸効も有たざるなり。願くは御慈悲の聖佑を、絶えず我等に降し給へ。我等の主 基督に依て冀ひ奉つる。亞孟。

序誦 (十二 頁)

司祭典文を讀む時の禱 (十三 頁)

司祭麴餅と葡萄酒に掩手する時の禱 (十四 頁)

聖体奉擧の時の禱 (十五 頁)

聖体奉舉後の禱

四十二

(十五頁)

主禱文

(十七頁)

神羔誦

(十八頁)

聖体を領くるを望む禱

(十八頁)

聖体受領の時の誦

エルザレム民よ、起きて小丘の上に登れ、而して
主が汝等に贈りたまへる幸福を見よ。

聖体領後の禱

主よ、此靈性の食糧を以て我等を飽かしめ給へ。又此
聖祭の功力に由て、我等をして地上の諸物を輕んじ、專

ら天堂のみ愛することを學べしめ給へ。我等の主 基督
に依て願ひ奉つる。亞孟。

掩祝の時の禱

(二十頁)

司祭々壇の左方に就き終りの福音を讀む時

の禱

(二十一頁)

聖會の爲の禱

(二十二頁)

彌撒後の禱

(二十四頁)

○待降節第三主日

彌撒拜聽前之禱

(三頁)

彌撒之殆之禱

入進誦

汝等主に於て絶えず喜べ。我猶一度其を言はん、汝等喜ぶべし。汝等の謹慎を凡ての人に認しめよ。蓋し主は近けれをなり。汝等何事をも思ひ煩ふ勿れ、唯願くは凡ての機會に於て、汝等の祈願の、感謝に伴ひ 天主に向て進まんことを。(詩)主よ、主は其遺産を祝したまへり、主は奴隸のヤコブを救ひたまへり。

(榮誦) 願くは聖父と聖子と云々

榮光之聖歌

集禱文

主よ、我等の祈願に對し、慈悲深き聖耳を傾けたまへ。又御降臨の聖籠に由て、我等の心の暗昧を拂ひ給へ。天主にてまします主、願くは聽許け給へ。亞孟。

聖保錄與腓立比人書 四章四節

我兄弟よ、汝等主に於て絶えず喜べ、我猶一度其を言ふ、汝等喜ぶべし。願くは汝等の謹慎の凡ての人に認めんことを。主は近けり、汝等何事をも思ひ煩ふ勿れ、唯每事に感謝に伴ふ處の汝の依頼、懇求及び祈禱を神に顯はすべし、而して神の平安、人の凡ての思考に超ゆる此

平安は、汝等の心と才智を、耶蘇基督に於て守らん。

昇階誦

智天使の上に坐したまふ 主よ、主の威光を輝かし給へ、而して來臨たまへ。嗚呼群の如くヨセフの子孫を導きたまふイスラエルの 天主よ、我等に聽き給へ。

慶哉慶哉、主よ、主の威光を輝かし給へ、而して我等を救はん爲に來臨たまへ、慶哉

聖約翰福音書 一章十九節

維時猶太人、イエルザレムより司祭とレグ非族等をヨハネに遣はして、汝は誰ぞやと問はしめし時、ヨハネの

證を作ることを左の如し。彼告白して諱まず、即ち告白すらく、我は基督にあらずと、彼等ヨハネに問らく、然らば何ぞや、汝はエリアなるか、(答へて)曰く、然らず。汝は夫の預言者なるか。答ふらく、否。因て彼等ヨハネに言けるは、汝は誰なるや、我等を遣はせる人々に、我等をして復命することを得せしめよ、汝は己自身を如何に謂ふや。彼言けらく、預言者イザヤの言る如く、我は主の道を直くせよと野に呼はる者の聲なり。其遣はされたる者共はフアリゼオ徒なりき。彼等乃ちヨハネを詰りて之に言らく、然らば汝は若し基督にも、エリアにも、また

夫の預言者にも非ずを何が故に洗するや。ヨハネ彼等に
答て曰けるは、我は水を以て洗す、然れども汝等の中に
汝等が知らざる者一位ありて立てり、彼は即ち夫の我よ
り後に來るべくして、我に勝る者是なり、其履の紐を解
くにだも我は堪ず。此等の事はヨルダンの前岸なるベタ
ニアにて起れり、彼處にヨハネは洗しつゝありたる也。

使徒信經

(九頁)

奉献誦

主よ、主は其遺産(即ち天主の吾人に分)を祝したまふ、奴
隷のヤコブを救けたまひ、主の民の不正を赦し給へり。

司祭麴餅と葡萄酒を捧る時の禱

(十頁)

微唱禱

主よ、主の立てたまへる此秘蹟の功力を我等に生せん
爲め、又我等の爲に備へたまへる救贖を我等の靈魂に得
させん爲め、敬虔の心を以て、常に此麴包を賛として、主
に献ぐるの聖寵を垂れたまへ。我等の主基督に依て願ひ
奉る。亞孟。

序誦

(十二頁)

司祭典文を讀む時の禱

(十三頁)

司祭麴餅と葡萄酒に掩手する時の禱(十四頁)

聖體奉舉の時の禱

(十五頁)

聖體奉舉後の禱

(十五頁)

主禱文

(十七頁)

神羔誦

(十八頁)

聖體を領くるを望む禱

(十八頁)

聖體受領の時の誦

嗚呼衰憊る心の人々よ、勇氣を奮ひて懼るゝ勿れ。視よ我等の 天主の來りたまひて我等を救はんとしたまへるを。

聖體領後の禱

主よ、我等主の慈悲を願ひ奉つる。願くは此聖祭が、我等の汚罪を淨めつゝ、我等をして夫の近づける祝日を祝するの準備を爲さしめんことを。我等の主 基督に依て冀ひ奉つる。亞孟。

掩祝の時の禱

(二十頁)

司祭々壇の左方に就き終りの福音を讀む時の禱

聖會の爲の禱

(二十一頁)

彌撒後の禱

(二十二頁)

○待降節第四主日

彌撒拜聽前之禱

(三頁)

彌撒之始之禱

(四頁)

入進誦

諸の天よ、汝の露を降せ、願くは黒雲は義者を雨らし
地は開かれて救世主を産まんことを。(詩)諸の天は 天主
の榮光を傳へ、蒼穹は其手の工を顯はす。

(榮誦)願くは聖父と聖子と云々

榮光之聖歌

(六頁)

集禱文

主よ、主の權能を現はしたまへ。其大なる愛憐を垂れ
て、來りて我等を援けたまへ。願くは主の最と寛容なる
仁恵に由りて、我等の罪科が其功力を妨ぐる處の天の賜
物を、我等に許與したまふやう、速かに爲さしめ給へ。永
遠に活き且統治したまふ、天主にて在ます主に依りて冀
ひ奉る。亞孟。

聖保錄與哥林達人前書 四章一節

我兄弟よ、願くは人の我等を基督の使者の如く、神の
奧義の分配者の如く見んことを。偕分配者に望む處の者

は、其忠信ならんこと是也。我は汝等に評られ、或は人に評らるゝことを尤も細事となす。我も肯て自己を評らず、蓋は雖ひ我良心毫も我を咎めざるも、我そが爲めに義とせらるゝにあらざれむなり、されど主は我審判者なり、然れを主の降臨まで、時に先だちて決して審判する勿れ、主は幽闇に隠れたる所の者を大なる日光に曝し、心の最も秘密なる思考(迄も)顯はしたまはん、其時各自其功績に應じて、神より譽を得べし。

昇階誦

主は其聖佑を願ふ處の者、誠實を以て其保佑を求むる

凡ての者の側に坐したまふ。願くは我口は主の頌讚を宣傳へ、萬物は主の聖名を祝せんことを。

慶哉慶哉、主よ來臨たまへ、躊躇たまふこと勿れ、來りて主の臣民なるエスラエル人の罪科を赦宥し給へ、慶哉。

聖路加福音書 三章一節

セザル、テベリヨ在位の十五年、ポンシオ、ピラト猶太の方伯たり、ヘロダガリレアの四分國君たり、其兄弟フシリポイナレア及びトラコニア地方の四分國君たり、リザニアアピリナの四分國君たる時、大司祭アンナとカイ

フア在職の際。主の言野に於てザカリヤの子ヨハネに臨
 めり、彼乃ちヨルダン地方に徧く至り、罪の赦宥にとて
 悔悛の洗禮を宣たり。預言者イザヤの言説「を載たる」書
 に録したる如し「野に呼はる者の聲ありて「云ふ」主の道
 を備へ、其徑路を直くせよ、凡ての谷は填められん、凡
 ての山岡は低くせられん、彎曲る者は直くせられん、崎
 嶇き者は平坦なる途とならん、都て肉身なる者は神の拯
 救を見ん」。

使徒信經

奉獻誦

慶哉聖寵充滿るマリヤ、主汝と共に在ます、汝は女の
 中にて祝せらる、又御胎の聖子 耶蘇祝せられ給ふ。

司祭麴餅と葡萄酒を捧る時の禱 (十 頁)

微唱禱

主よ、我等が献ぐる此供物を嘉納めたまへ、願くは此
 供物に由り、我等の信徳を進め、我等の救靈を確固め給
 はんことを、我等の主 耶蘇基督に依て願ひ奉つる。亞
 孟。

序誦

司祭典文を讀む時の禱

司祭麴餅と葡萄酒に掩手する時の禱(十四頁)

聖体奉舉の時の禱(十五頁)

聖体奉舉後の禱(十五頁)

主禱文(十七頁)

神羔誦(十八頁)

聖体を領くるを望む禱(十八頁)

聖体受領の時の誦(十八頁)

視よ、童女懷孕て男子を産まん、而して彼はエムマヌエルと稱るべし。

聖体領後の禱

主よ、我等の拜受し秘蹟に由り、我等主に願ひ奉つる。願くは此秘蹟の拜領が我等の救靈を確固むるに力を協せんことを、我等の主基督に依て冀ひ奉る。亞孟。

掩祝の時の禱(二十頁)

司祭々壇の左方に就き終りの福音を讀む時の禱

聖會の爲の禱(二十一頁)

彌撒後の禱(二十二頁)

彌撒後の禱(二十四頁)

✠ 聖誕大祝日

夜半之彌撒

彌撒拜聽前之禱

彌撒之始之禱

入進誦

(三頁)

(四頁)

主は我に宣へり、汝は我子なり、我今日汝を産めりど。

(詩) 國民よ、何故に騷擾つや、人民よ何故に無益のことを謀るや。

(榮誦) 願くは聖父と聖子と云々

(六頁)

榮光之聖歌

集禱文

嗚呼、天主、主は眞の光明にて在ます者の御降誕に由て、此輝ける聖き夜を現はし給へり。願くは我等をして肉化れる主の言の、此妙なる奧義を地上に於て認へ敬ひたる後、彼聖位が其選民に傳へたまひし純潔なる喜樂を、天に於て享受しめ給はんことを、永遠に活き且統治し給ふ 天主にて在ます 耶穌基督に依て願ひ奉つる。亞孟。

聖保錄與提杜書

二章十一節

我最親愛なる兄弟よ、我等の救主なる 天主の聖寵は、
 凡ての人に顯はれ、我等に誨へて不信と現世の慾を棄て、
 節制、正義及び敬虔を以て此世に生活へ、其望む處の福
 社と、大なる 天主即ち耶蘇基督の光榮なる降臨を常に
 待たしむ。基督は我等の爲めに躬親を捨て給へり。是れ
 我等を諸の罪科より贖ひ、我等を淨めて、特に其從屬に
 於て定められたる一の民となし、善き事の實踐に其身を
 委ねしめん爲なり。(汝等)此眞理を説き、又我等の主 耶
 蘇基督に依て此を信ずることを獎勵ますべし。

昇階誦

無上のもの、諸聖人の榮光に於て主の權威の顯はれん
 日に、主と共に在るべし我れ曉天の前に於て、汝を我胎
 より生めり。(詩)主我主に宣はく、「我れ汝の敵を汝の承足
 となす迄我右に坐せ」と。

慶哉慶哉、主は我に宣まへり、「汝は我子なり、

我今日汝を生めり」と、慶哉。

聖路加福音書 二章一節

維時天下の民をして籍に登らしむる詔諭セザル、オグ
 ストより出たり。此戸籍登録はシリノがシリア總督たる
 時に始めて行はれし者なり。是に於て僉届け出んとて、

各々の邑に至れり。ヨゼフも亦ガリレアよりナザレトの邑より出で、猶太に上り、ダヴサドの邑ベトレムと云ふに至りぬ、是は彼ダヴサドの家と宗族に屬する者なりけれ也。其聘定の妻にして既に孕めるマリアと偕に、「其名を」届け出んと欲す。恰も彼處にをれる時マリア産期満ちて冢子を生みけれを、之を襁褓に裏みて襁褓の中に臥さしめき、是は旅館にて彼等の「入るべき」處なかりしが故なり。適ま同じ地方に若干の牧者あり、更たけて其群の爲めに、夜番をなしをりしに、視よ主の聖使彼等の傍に立ち、神の光明彼等を環り照しけれを、則

ち怖て大なる恐惶をいだけり。聖使乃ち彼等に言けるは、彼等懼る勿れ、視よ、我萬民にあるべき鴻大なる歡喜の嘉音を汝等に齎せり。今日ダヴサドの邑にて救主なる主基督汝等の爲に生れたまへり。汝等これを以て徴號とせよ、即ち汝等綠兒の襁褓に裏まれて襁褓に臥さしめられたるを見ん。倏忽にして衆多の天軍其聖使と共に在り、神を讚美して曰く、至高き處にては神に榮光あれ、地には善意の人に平安あれ。

使徒信經
奉獻誦

主の尊前にて、何故に諸の天は歡喜し、地は雀躍するや、是れ我主の來臨たまひしに由てなり。

司祭麴餅と葡萄酒を捧る時の禱 (十頁)

微唱禱

主よ、我等が此公式に於て、主に獻げ奉れる供物を嘉納め給へ、又我等の本體は耶蘇基督に於て主と一致せり。然る願くは聖寵と此聖き秘蹟の徳とを以て、彼に一致せしめたまはんことを。永遠に活き且統治し給ふ天主にて在ます耶蘇基督に依て願ひ奉つる。孟亞。

序誦 (十二頁)

司祭典文を読む時の禱 (十三頁)

司祭麴餅と葡萄酒に掩手する時の禱 (十四頁)

聖體奉舉の時の禱 (十五頁)

聖體奉舉後の禱 (十五頁)

主禱文 (十七頁)

神羔誦 (十八頁)

聖體を領くるを望む禱 (十八頁)

聖體受領の時の誦 (十八頁)

我れ汝を諸聖人の榮光に於て、曉天の前に我胎より産

めり。

聖體領後の禱

主よ我等の天主、我等主に祈り奉る。願くは耶穌基督の神聖なる祭義に與かり、喜悅を以て吾主の聖誕を祝し、聖き生活に由て彼聖位と一致し得んことを。主と共に活き且統治したまふ天主に在ます耶穌基督に依て願ひ奉る。亞孟。

掩祝の時の禱

司祭々壇の左方に就き終りの福音を讀む時の禱

(二十頁)

(二十一頁)

聖會の爲の禱

讀誦彌撒の時に限る(二十二頁)

彌撒後の禱

(二十四頁)

黎明之彌撒

彌撒拜聽前之禱

(三頁)

彌撒之始之禱

(四頁)

入進誦

今日光明は我等の上に耀くべし、是れ主の我等に降誕れたまへるに因りてなり。彼は感すべき者、天主、平和

の王、來世の父と呼ばれ給はん、其國決して終期あらじ。

(詩)主は其御國に入りたまへり、主は其榮光を以て覆はれ、其權威を以て武装れたまへり。

(榮誦)願くは聖父と聖子と云々

榮光の聖歌

(六 頁)

集禱文

全能の天主、主は今日肉化となり給へる主の言の新たな
る光明を以て、我等の上に被照したまへり。願くは、我
等の心を照せる此立義の信仰をして、亦我等の行爲をも
照さしめ給へ。吾主、耶穌基督に依て一向冀ひ奉つる。

亞孟。

聖保錄與提杜書

三章四節

我最親愛なる兄弟よ、我等の救主なる神の、人類の爲
に其慈悲と愛情とを顯はしたまひし時、彼は我等が行せ
し正義の行爲に因らず、唯其愛憐に由て、洗禮を以て我
等を再生らしめ、聖靈を以て我等を新にしつゝ、我等を
救ひ給へり。聖靈は即ち神の我等に其聖寵に由て、我等
の希望に従ひ、我等の主、耶穌基督に於て、永久の生命
の繼承者たるべき日有んことを顯はさん爲め、我等の救
主なる、耶穌基督に由て豊かに我等の上に注ぎ給ひし所

のものなり。

昇階誦

主の名に於て來る者は祝せられよかし、主は我等の天
主にて在ます、主は其光明を我等の上に耀したまへり、是
れ主の聖爲にて吾人の眼には感嘆せらる。

慶哉慶哉、主は其御國に入り給へり。主は其榮光を以
て覆はれ、其權威を以て武装れたまへり、慶哉。

聖路加福音書 二章十五節

維時牧者等互に言けるは、去來ベトレムへ涉り、主
の我等に示し給へる其成りし事を見んと、彼等急ぎ到れ

心、則ちマリアとヨゼフと芻槽に臥たる綠兒とに遇へり。

既に見るや、彼等は此子につきて已等が告られたる言の
真なるを了れり。聞く者みな牧者等が已に語れる事等
を異めり。マリアは此等の事を悉く記憶て其心に回想ら
せり。牧者等は其聞たる所及び見たる所の成己に告られ
し如くなるが爲に、神を尊榮し且讚美して歸れり。

使徒信經

奉獻誦

(九 頁)

主は大地を鞏固たまへり、彼は決して震動かざらん。嗚
呼 天主よ、主の高座は永久なり、主は凡ての時間の以

前に在ませり。

司祭麴餅と葡萄酒を捧ぐる時の禱 (十頁)

微唱禱

主よ、願くは我等の供物を以て、今日我等の崇め奉る此立義固有の功果を我等に獲しめ、恒常に平和を我等の上に降し給へ。之に由て人となりたまひし 耶蘇基督の、同時に 天主にて在せし如く、聖別式の徳能に由て變せられたる此地の穀實が、我等に神性を傳達んことを。我等の主 耶蘇基督射親に依て願ひ奉つる。 亞孟。

序誦 (十二頁)

司祭典文を読む時の禱 (十三頁)

司祭麴餅と葡萄酒に掩手する時の禱 (十四頁)

聖体奉擧の時の禱 (十五頁)

聖体奉擧後の禱 (十五頁)

主禱文 (十七頁)

神羔誦 (十八頁)

聖体を領くるを望む禱 (十八頁)

聖体受領の時の誦 (十八頁)

シオンの聖女よ歡喜べ、イエルサレムの聖女よ主を讚美せよ、視よ汝の王、汝の神、世の救主は來臨たまへ

り。(此二の聖女の義に譬へし也)

聖體領後の禱

主よ、我等をして老たる人の、(老たる人さば未だ救贖を享けざる人性を指す) 由て以て亡ばさるゝ奥妙なる降誕の記憶を更新する處の聖祭に由て、新なる生命を、常に受くるを得しめたまへ。我等の主 基督に依て謹で祈り奉つる。亞孟。

掩祝の時の禱

(二十頁)

司祭々壇の左方に就き終りの福音を讀む時の禱

(二十一頁)

聖會の爲の禱

讀誦彌撒の時に限る (二十二頁)

彌撒後の禱

(二十四頁)

日中之彌撒

彌撒拜聽前之禱

(三頁)

彌撒之始之禱

(四頁)

入進誦

一人の幼孩我等の爲に生まれ、一人の男兒我等に與へられたり、彼は肩上に其稜威の徽章を擔ふ、而して大なる超見の天使と呼むるゝならん。(詩)主に新なる讚歌を唱へ。彼奇き事をなしたれをなり。

(榮誦) 願くは聖父と聖子と云々

榮光の聖歌

(六 頁)

集禱文

全能の 天主、我等主に願ひ奉つる、願くは主の獨一
聖子の肉躰に於ける、新たなる此御降誕をして、罪科の
軌に由りて、久しき間奴隷の態狀に繋留められたる此罪
囚を赦して自由ならしめ給はんことを。我等の主 耶蘇
基督に依て願ひ奉つる。亞孟。

聖保錄與希百列亞人書

一章一節

神往昔は多くの機會に於て、種々なる方法を以て、其

預言者に藉り、我等の列祖に告げたまひしが、此末日に、
は、其 聖子に託りて我等に告げ給へり。神は彼を萬物
の繼嗣となし、且彼を以て諸の世界を創造りたりと。彼
は神の榮譽の光輝、其本質の眞像にて、其全能なる言を
以て、萬物を扶持ち、我等の罪科の淨めをなせし後、天
の最高に於て無上なる威光の右に坐せり。彼が受けし名
の、天使の名より上位れるが如く、彼等よりは優れり。蓋
し神は如何なる天使にか會て斯く宣ひしや、「汝は我子な
り、我今日汝を生めり」と、又「我は彼の父たり彼は我
子たらん」と、猶其家子を世に入らしむる時に宣へるや

「神の諸の使は皆之を拜すべし」と、又天使等に就ては
 「神は其使臣等を作るに氣を以てし、其役はるゝ者を猛焰
 にて作れり」と聖經に曰へり。されど子に就ては「嗚呼
 神よ、汝の座位は永遠に達び、汝の國の杖は正しき杖な
 り、汝は義を愛し、不正を惡む、是故に 天主即ち汝の
 神は、喜樂の傳油を以て、汝の榮譽に參與る凡ての儕よ
 り超愈りて汝に沃ぎたまへり」と曰ひ、其他「主よ、汝
 は元始に地を其基礎の上に奠めぬ、天も汝が手の技工な
 り。此等は喪びん、されど汝は恒常に存らん、此等は凡
 て衣の如く古びん、汝此等を袍の如く捲かん、又彼等は

變せられん、汝は恒常に變ることなく、汝の壽を決して
 終らじ」とも曰へり。

昇階誦

地上の萬國、擧て、我等の 天主が與へたまひし救贖
 を見たり、願くは全地の衆民主を讚美し奉つらんことを。
 (詩) 主は其誓ひたまひし救贖を認めしめ給へり、即ち其
 正義を諸國民の眼に顯したまへり。
 慶哉慶哉、聖日は我等の爲に耀けり。來れ諸國民、來
 りて主を拜すべし、蓋は今日大なる光明は地上に降照り
 たまひたれむなり、慶哉。

元始に言靈ありき、言靈は神と偕に在りき、言靈は神なりき。是は元始に神と偕に有りき。萬物は彼を以て造られき、造られたる物は何一として彼なしには造られざりき。生命は是れ人間に光たりき。此光や暗に照れども、暗は之を曉らざりし也。茲に神より遣はされし人ありて、其名をヨハネと云へり。此者は證にとて來れり、即ち己に藉て萬姓に信せしめん爲め、該光につきて證を作んが爲なりき。彼自己は光にあらざりき、惟光につきて證を作んが爲なりし也。斯ぞ眞實の光にして、凡そ此世に來

る人を悉く照すなり。彼は嘗て世に在りき、世は彼を以て造られたり、然るに世は彼を識らざりき。彼は己の領分に臨めりしに、其領民彼を接けざりき。されど凡そ彼を接けたる者等、彼の名を信する者には、神の子等と成るの力を授けたまへり。斯輩は血脈よりに非ず、肉情よりに非ず、人意よりに非ず、惟神より生るゝ也。「斯言靈の聖父の獨生子の如き、榮光を觀たてまつれり、恩寵と眞理に充ち満てり。

使徒信經

奉獻誦

諸の天と地は主に在り、即ち主は此宇宙と、宇宙に處有萬有とを造りたまへり。正義と公平は主の帝座の基礎たるなり。

司祭麴餅と葡萄酒を捧ぐる時の禱 (十頁)

微唱禱

主よ、主の獨一聖子の新なる降誕に由りて、主に獻げられたる此供物を祝聖し給へ。又我等の罪科の汚斑を洗淨めたまへ。耶蘇御躬親に依りて我等之を主に祈り奉る。亞孟。

序誦

(十二頁)

司祭典文を読む時の禱

(十三頁)

司祭麴餅と葡萄酒に掩手する時の禱(十四頁)

聖体奉擧の時の禱 (十五頁)

聖体奉擧後の禱 (十五頁)

主禱文 (十七頁)

神羔誦 (十八頁)

聖体を領くるを望む禱 (十八頁)

聖体受領の時の誦

地の凡ての邊陲までも我等の天主が遣りたまひし救

靈を見たり。

聖体領後の禱

全能の 天主、願くは世の救主が今日肉軀によりて生れ、我等をして神の世界に更生せしめ、永久の生命を賦與へたまふやうに爲したまはんことを。永遠に活き且統治し給ふ 天主にて坐ます耶蘇基督に依て願ひ奉つる。
亞孟。

掩祝の時の禱

(二十頁)

司祭々壇の左方に就き終りの福音を讀む時の禱

(二十一頁)

聖會の爲の禱

説誦彌撒の時に限る(二十二頁)

彌撒後の禱

(二十四頁)

芻槽前の禱文

嗚呼最愛すべき 耶蘇基督、曠昔敬虔なる收者等が主を拜み奉つれる如く、我主を芻槽の内に拜み、此芻槽の前に平伏し心を盡して、主が我等の爲に天より地上に降臨たまひしを感謝し奉つる。嗚呼 耶蘇よ、主の愛情は如何に主を指導しど、無極の富貴より最も貧困に、無上の高位より最も卑賤に、無限の尊嚴より最も微弱に降り

たまへり。諸多の預言者は、主が大なる榮光を以て來り
 たまひ、主の祖先なるダヴ非ドの位に座したまふことを
 告げしにわらずや。又誰か主が此微弱き幼孩の容貌の下に
 現はれ、此世に於て彼程の虐待を受けたまふを信せんや。
 嗚呼、耶蘇よ、主は單り天より地上に降りたまひしのみ
 ならで、夫の鬱悒き茅屋の内にまで、如何に其身を下し
 給ひしぞや。されど夫の芻槽は、主の爲には黄金の搖籃
 にして、夫の藁屑は錦繡の衾裯、暗澹たる洞窟は金殿玉樓
 にてありし也。嗚呼最高の主權者よ、何程主は謙遜り
 たまひしぞ。嗚呼萬の富の主よ、如何に主は貧じかりし

ぞ。視よ主は遺棄られたる幼孩の如く、赤貧の状態を忍
 びつゝ横はり給ふ。實に主は身に纏へる憫焉なる襤褸の
 他、此世の幸福は何一つも有ちたまはざるなり。嗚呼棄
 てられたまへる 耶蘇よ、主を其家に招じ奉つるを欲め
 る者はあらざるか、最窶々しき乞巧者の子の如く此芻槽
 に臥さしめ奉つらざるを得ざるにや。噫此狀景は如何に
 我を心苦惱るぞ。噫在天の 聖父の唯一聖子が、此忘恩
 なる世の儕に、如何はと無情の待遇を受けたまひしかを
 見る時は、我腸は如何に寸斷せらるゝぞ。若しも主を接
 くる者あらずんば、我は主に、我最も敬愛なる友に對す

る如く、最壯嚴なる住處を供へんことを欲み奉つる。嗚呼最敬愛すべき耶蘇よ、見よ我れ我心を整備たり。願くは花の細に於けるが如く此處に眠りたまへ。我心に降臨たまひて、主の聖慮に副ひ得るやう聖旨の儘に整へたまへ。擧て地上の慾を驅り天上の愛を充たし給へ。凡ての卑怯と凡ての怠慢とを拂ひ、正しき熱情を燃わしめ、諸の過失を淨め萬般の徳より飾りたまへ。

嗚呼善良なる耶蘇、我を憐みたまへ。我罪科を赦したまへ。我千度主の肢体に接吻し、主に背きて犯したる諸の罪科の赦宥を冀ひ奉つる。又當日に於て、天地の間

に充滿てる普遍歡喜に由て、我主に祈り奉つる。願くは慰藉なくして主の芻槽より離るゝを寛假したまふこと勿れ。主の我を赦宥し我を祝福したまふ迄は、我決して主を辭去じ。主が我爲に涙ぎたまへる涙滴、堪へたまへる寒氣、忍びたまへる貧困、其他我を愛したまへるより甘んじて受けたまひし諸の悲嘆の功德を、悉く主に献げ、猶主が依て以て天より降りたまひし無限の慈愛と、依て以て此下に現はれたまひし無量の温和と、至聖なる御母に盡したまひし從順と、聖ヨセフに顯したまひし凡ての忠實、及び主の芻槽に於て、天使等と人々より献げにし凡

ての尊敬を献げ奉つる。此諸の献物を以て、我主に祈願し奉つる。願くは我一切の罪科を赦し、自今以後専心熱誠に主に奉事するの聖寵を下し賜はんことを。亞孟。

○聖誕後八日間に在る主日

彌撒拜聽前之禱

(三頁)

彌撒之始之禱

(四頁)

入進誦

萬物は緘黙の中に沈み、夜は其進路の半途に到着せる

時。主よ、全能なる主の言靈は天に於て占めたまへる帝座を離れて降りたまへり。(詩)主は其領國に入り給へり。彼は其榮光を以て覆はれ、其權威を以て武装はれ給へり。(榮誦)願くは聖父と聖子と云々

榮光の聖歌

(六頁)

集禱文

全能永遠の天主、願くは我等が主の聖子の名に於て、善行の好果を豊かに收め得る爲に、我等の諸の行爲をして、主の聖慮に適はしめ給はんことを。永遠に活き且統治したまふ 耶蘇基督に依て願ひ奉つる。亞孟。

聖保錄與加拉太人書 四章一節

我兄弟よ、嗣子たる者、萬物の主なれども、其童蒙の時
 時は更に奴僕に異らず、其父の指定たる期到る迄は、受
 託者及び家宰の權下に在り。斯の如く、我等も亦童蒙の
 時は、此世の小學の下に従屬ふなり。然れども時期已に
 熟るに及びて、神は其聖子を遣はしたまへり。彼は女よ
 り生れ、且律法の下に服したり。是れ我等をして、其義
 子たることを得しめんとて、律法の下に在る者を贖はん
 爲なりき。且汝等已に其子たるに因り、アハ我父と喚べ
 る其聖子の靈を汝等に遣れり。是故に汝等既に奴僕にあ

らず子たるなり。已に子たらむ、亦神の聖寵に由て嗣子
 たる也。

昇階誦

嗚呼人の子の最美はしき者よ、恩寵は主の唇上に灌が
 れたり。我心歡喜を以て左の幸なる言語を發せり、曰く、
 王を讚美し奉らん哉、我舌は機敏なる記者の手に於ける
 毛管の如しと。

慶哉慶哉、主は其領國に入りたまへり。彼は其榮光を
 以て覆はれ、其權威を以て武装はれ給へり。慶哉。

聖路加福音書 二章三十三節

維時 耶蘇の父母は其孩兒につきて此等の事の唱へられたるを驚き歎せり。シメオン又彼等を祝し、母マリアに言けらく、嗚呼斯の兒はイスラエルにて衆くの者の仆れん爲め、又衆の者の興らん爲に立らる、且辯駁を來すべき記號となるべし、將に劍ありて汝の靈魂を刺透さんどす、斯て衆人の心より思想露はれ來べし、茲にアンナと云ふ女預言者あり、ファヌエルの女にしてアゼル族の者なるが、太く年邁みてあり、嘗て處身の時より後七年その夫と偕に居れり、今は孀婦となりて既に八十四歳に至り、聖殿を離れずして、禁食と祈禱を事とし、日夜奉

事へてありき。彼も同時に入來りて主を稱讚し、凡そイスラエルの拯救を望み待つ者には斯の兒の事を語れり。

使徒信經

奉獻誦

(九 頁)

天主は大地を搖がざる基礎の上に据ゑたまへり。嗚呼我天主よ、主の寶座は一切の時間に先たり、主は全く無限にて坐しますなり。

司祭麪餅と葡萄酒を捧ぐる時の禱 (十 頁)

微唱禱

全能の天主、我等の祈願を聽許たまへ、願くは主の

神聖なる稜威に對して獻げ奉つる此獻物を以て、我等に熱誠なる信心の恩寵を得しめ、猶終りなき福祉に至らしめ給はんことを。我等の主 基督に依て願ひ奉つる。亞孟。

序誦

(十二頁)

司祭典文を読む時の禱

(十三頁)

司祭麴餅と葡萄酒に掩手する時の禱(十四頁)

(十四頁)

聖体奉擧の時の禱

(十五頁)

聖体奉擧後の禱

(十五頁)

主禱文

(十七頁)

神羔誦

(十八頁)

聖体を領くるを望む禱

(十八頁)

聖体受領の時の誦

幼孩と其母とを携へ、イスラエルの地に歸りたまへ。蓋は幼孩を殺さんと欲める者已に斃したれをなり。

聖体領後の禱

主よ、此聖祭の徳能に由て我等の過失を淨め、而して我等の正しき希望を肯ひたまへ。我等の主 基督に依て我之を主に祈り奉つる。亞孟。

掩祝の時の禱

(二十頁)

司祭々壇の左方に就き終りの福音を讀む時

の禱

(二十一頁)

聖會の爲の禱

讀誦彌撒の時に限る(二十二頁)

彌撒後の禱

(二十四頁)

○吾主之割禮

彌撒拜聽前之禱

(三頁)

彌撒之始之禱

(四頁)

入進誦

一の幼孩我等の爲に生れ、一の男兒我等の爲に與へられ
たまへり。彼は其肩の上に主の權威の徽章を擔へり、而
して彼は大なる超見の天使と稱せられたまはん。(詩)主の爲
に新なる譜を奏へ、彼奇しき所爲を成したまひたれをな
り。

(榮誦)願くは聖父と聖子と云々

榮光之聖歌

(六頁)

集禱文

嗚呼 天主、主は榮福なる瑪利亞の童身を以て子を産
ましめ、人類に無窮の救靈を與へたまへり。願くは我等

に生命の造者、即ち主の聖子、我等の主 耶蘇基督を授けたまひし聖マリアの轉達が、主の尊前に、如何に有力かを感せしめ給へ。永遠に活き且統治したまふ 天主にて在ます 耶蘇基督に依て願ひ奉つる。 亞孟。

聖保録與提杜書 二章十一節

(聖誕祝日夜半の彌撒(六十一頁)に於ける書簡を見よ)

昇階誦

地の凡ての際涯までも、我等の 天主が遣りたまひし救霊を見たり。 全地球の人々よ、主を讃頌し奉つれ。 主は其救霊を公布したまひ、其正義を諸國民の眼に顯した

まへり。

慶哉慶哉、往昔種々なる機會に於て預言者の口を藉りて、我等の祖先に語りたまひし 天主は、此終りの時に於て、其聖子に依て我等に語りたまへり、慶哉。

聖路加福音書 二章廿一節

維時、八日過ぎて嬰兒を割すべきに至りければ、其未だ胎に懷孕れざる前に聖使の稱へし如く、其名を 耶蘇と稱へたり。

使徒信經

奉獻誦

天と地は主に在り、主は宇宙と、宇宙に有ゆる萬物とを創造りたまへり。正義と公平とは主の寶座の基礎たるなり。

司祭麴餅と葡萄酒を捧ぐる時の禱 (十頁)

微唱禱

主よ、願くは我等の献物と祈禱とを受けたまひて、主の此秘蹟を以て我等を淨め、主の慈悲を垂れて我等に肯諾ひたまはんことを。我等の主 耶蘇基督に依て冀ひ奉る。亞孟。

序誦

(十二頁)

司祭典文を讀む時の禱 (十三頁)

司祭麴餅と葡萄酒に掩手する時の禱 (十四頁)

聖體奉舉の時の禱 (十五頁)

聖體奉舉後の禱 (十七頁)

主禱文 (十八頁)

神羔誦 (十八頁)

聖體を領くるを望む禱 (十八頁)

聖體受領の時の誦 (十八頁)

地の凡ての邊陲までも舉て我等の 天主が遣はしたまひし救靈を見たり。

聖體領後の禱

主よ、此聖體拜領が我等の罪科を消滅し、又聖寵滿被てる童貞マリア、即ち天主の聖母の轉達に由て、我等が拜領せる此天の藥劑の功驗を我等に感せしめたまへ。我等の主 基督に依て謹で之を願ひ奉つる。亞孟。

掩祝の時の禱

(二十頁)

司祭々壇の左方に就き終りの福音を讀む時の禱

(二十一頁)

聖會の爲の禱 讀誦彌撒の時に限る(二十二頁)

彌撒後の禱

(二十四頁)

元旦の禱文

嗚呼天主、在天の聖父、主は慰藉の神、愛憐の父にて坐ます。主は我等の生れし初頭より、此新年に至るまで、斯る危難の中に於て、奇妙くも我等を扶け護りたまへり。我等之を心の蘊底より感謝し奉つる。又茲に主の最と愛しみたまふ聖子と、彼聖位が我等の爲めに、當日濺ぎたまひし尊き聖血に依りて、我等が去年の内に、主の掟に背きて主を瀆し、主の義怒を惹き奉つりし諸の犯罪の赦

百八
宥を冀ひ奉つる。嗚呼願くは今年の間、及び我死期に至る迄、凡ての罪科と心身の凶事とを防護たまへ。我等に信望愛の三徳を増進し、且之を強固めたまへ。又今我等が主に献げ奉つる凡ての感情、思想、言語、及び行爲をして、我等の死に至る迄、一に主の聖旨の儘に統治めさせたまへ。尙願くは我等をして、宗傳なる公教會の信仰に於て死し、尋で主の王國に於て、最樂しく終りなき新年を祝さしめたまはんことを。亞孟。

○吾主之公現 即三王來朝

彌撒拜聽前之禱

(三) 頁

彌撒之始之禱

(四) 頁

入進誦

主よ、主宰者は來臨りたまへり。彼は其掌に權と力と稜威とを有ち給ふ。(詩)主よ、主の主權を王に與へ、主の正義を王の子に與へたまへ。

(榮誦) 願くは聖父と聖子と云々

榮光之聖歌

(六) 頁

嗚呼天主、主は今日一星の現出に由て、其惟一聖子を
 異邦人等に顯したまへり。願くは我等信仰の光明に由て
 既に主を認へたれを、他日主の神威の光輝に於て、主に
 拜謁し奉つるの榮譽を得しめたまはんことを。我等の主
 耶穌基督に依て願ひ奉つる。亞孟。

以賽亞書 六十章一節

イエルザレムよ、起きて光明に眼を瞎け、蓋は光明は
 近づき、主の榮光は汝の上に耀けむなり。暗昧は地を覆
 ひ闇夜は衆民を包めり、然れど主は汝の上に起ち、其榮

光は汝の境上に耀かん。人民等と國王等は汝の光明に進
 み來ん。眼を昂げて汝の四圍を眺め視よ、此人民の群は
 汝に進み、汝の兒等は遠方より來り、汝の女等は四方よ
 り起たん。此群集の眼に汝は奇しまれん。海外多數の國々
 と、國民の軍勢の汝に來るを見ん時に、汝の心は樂以て
 溢れん。汝の門にメデアン及びエフハの駱駝は現はれん。
 サバの住民等は、黄金と乳香とを汝に獻げ、主の讚美を
 公表せんとて、來るべし。

昇階誦

サバの住民は擧て黄金と乳香とを獻げ、主の讚美を公

けにせんとて来るならん。イエルザレムよ起きて光明に
眼を睜け、蓋し主の榮光は汝の上に耀け也。
慶哉慶哉、我等東の方にて其星を見つれた、面たり主
を拜せんとて来りぬ。慶哉。

聖馬竇福音書 二章 一節

夫へロデ王の時、ユダのベトレヘムに 耶蘇生れたま
ひけるに、視よ、博士等東方よりイエルザレムに來りて、
言けるは、ユデア人の王として生れたる者は何處に在ま
すや、我等東方にて其星を見たれを、彼を拜せんとて來
れるなり。へロデ王之を聞て駭けり、彼と共にイエルザ

レムも亦舉りて然り。王乃ち司祭長等と民間の學士等を
悉く集めて、基督は何處に生るべきやと之に問けるに、彼
等王に言けらく、ユダのベトレヘムにてなり、蓋は預言
者斯く録したれをなり、「云く」ユダの地ベトレヘムよ、汝
はユダの郡中にて至小き者にあらず、吾民イスラエルを
治むべき君汝の中より出でんとすれをなり。是に於てへ
ロデ密に博士等を召て、星の彼等に現はれし時を詳かに
問知り、彼等をベトレヘムに赴かしめて曰く、往きて孩
兒の事を細に尋ね、之に遇なむ我に告げよ、我も往きて
之を拜せんとすと。彼等王「の言」を聽て往きけるに、視

よ東方にて見たる星、彼等の前に行き、孩兒の居る處に至りて其上に止まれり。彼等其星を見て大に喜び、乃ち家に入りて孩兒の其母マリアと偕に居るを見、俯伏して孩兒を拜し、寶盒を開きて之に黄金、乳香、沒藥を禮物として献げたり。斯て博士等はヘロデに返るべからずとの回示を夢に得て、別の途より己の國に返りぬ。

使徒信經

奉獻誦

海外と遠き島嶼の王等は、彼に獻物を上つり、アラビアとサバとの王は、彼に禮物を齎らし、地上の諸王等は、

彼を拜し、萬國の民は彼に服従はん。

司祭麪餅と葡萄酒を捧ぐる時の禱 (十頁)

微唱禱

主よ、願くは慈眼を垂れて聖會の供物を顧みたまへ、這は爰に黄金、乳香、沒藥にはあらで、此等の禮物にて擬象られたまひし者、即ち主の聖子 耶蘇基督にて在ますなり、彼は我等の爲に犠牲となりたまひ、此秘蹟に於て我等に授與られ給ふ。永遠に活き且統治したまふ 天主にて在ます 耶蘇基督に依て願ひ奉つる。亞孟。

序誦

司祭典文を讀む時の禱 (十三頁)

司祭麴餅と葡萄酒に掩手する時の禱 (十四頁)

聖體奉舉の時の禱 (十五頁)

聖體奉舉後の禱 (十五頁)

主禱文 (十七頁)

神羔誦 (十八頁)

聖體を領くるを望む禱 (十八頁)

聖體受領の時の誦 (十八頁)

我等東方にて其星を見たれを、主を拜せんとて、禮物を齎て來れり。

聖體領後の禱

全能の天主、願くは我等の淨められたる精神をして、

此聖式に於て祝し奉つれる奥義を悟入しめたまはんことを、

我等の主、基督に依て、我等之を禱り奉つる。亞孟。

掩祝の時の禱 (二十頁)

司祭々壇の左方に就き終りの福音を讀む時

の禱 (二十一頁)

聖會の爲の禱 讀誦彌撒の時に限る (二十二頁)

彌撒後の禱 (二十四頁)

○三王來朝後第一主日

彌撒拜聽前の禱

(三頁)

彌撒之始之禱

(四頁)

入進誦

我れ寶座に坐したまへる人を見たり、天使の群隊は一齊に謳ひつゝ之を拜す、曰く是れ無窮永續くべき聖國の主宰者にて在すなりと。(詩)地の住民よ、汝等の天主を祝し、歡喜を以て主に事へ奉つれ。

(榮誦)願くは聖父と聖子と云々

榮光の聖歌

(六頁)

集禱文

主よ、主の信徒が捧げ奉つる誓願と祈禱を嘉納めたまへ。主の天上の祝福を彼等の上に降し給へ。其に依て彼等が其爲すべき所を辨へ、認識たる處を實行に堪へんことを。主と偕に永遠に活き且統治たまふ聖子、我等の主耶穌基督に依て願ひ奉つる。亞孟。

聖保錄與羅馬人書 十二章一節

我兄弟よ、我神の汝等に爲したまひし慈恵に由て汝等に勸む、其身を神の聖意に適ふ聖く活ける供物として。

神に献げよ、是れ當然の祭なり、慎で現世に倣ふ勿れ、惟神の欲みたまふ善、其悦び給ふ旨、及び完き者を知らん爲に、心の更新に由りて、汝等を革めよ、我享し處の聖寵に藉て、汝等各々に誥ん、過度に高き感情を起す勿れ、惟神の各人に賜りたる信仰の衡量に従ひて、公平に止まるべし、蓋し我等單一つの體に多の肢あれども、皆其用を同ふせざる如く、我等も亦多數けれど、耶蘇基督に於て、單一體たれを又相互に肢たるなり。

昇階誦

イスラエルの 天主なる主は祝せられよかし。諸の妙

蹟を成したまふは單り主のみにて在ますなり。願くは山嶽は人民の爲に平和を受け、義は丘陵の上に降らんことを。

慶哉慶哉、全地の衆民よ、汝等の 天主を祝し、大なる歡喜を以て、主に仕へ奉つれ、慶哉。

聖路加福音書 二章四十二節

耶蘇十二歳になりし時、該祝祭の例規に循ひてイエルザレムに上り、其日を竭して歸りたりしに、兒耶蘇はイエルザレムに留まれり。雙親これを知らず、同伴者の中に居るならんと思ひて一日路を行き、茲に彼を親族れよび

知人の中に覓めたるに、見出さざりければ、彼を尋ねて
 イエルザレムへ還りぬ。適ま三日の後彼が聖殿にて博士
 等の中に坐して、之に聴き且之に問ひをるに遇ふ。聞く
 者みな彼の智慧と彼の應答に感じたり。「雙親」見て驚け
 り。其母かれに言ひけるは、子よ、何ぞ我等に斯く爲し
 たるぞや、視よ汝の父と我憂へて汝を尋ねたり。耶蘇雙
 親に言らく、奚爲ぞ我を尋ねらるゝや、我は吾父の事に
 従はざる可らざるを知らざるやど。雙親は 耶蘇の彼等
 に言る辭を理會せざりき。耶蘇乃ち彼等と共に下りてナ
 サレトに至り、彼等に順ひをれり。其母は此等の事等を

悉く心に留れけり。耶蘇智慧と身齡、亦神と人との寵遇
 俱に愈よ加はりぬ。

徒使信經

(九 頁)

奉献誦

地の住民よ、汝等の 天主を祝し、歡喜を以て主に仕
 へ奉つれ。聖き喜悅の發作に於て、主の尊前に進むべし、
 蓋し主は惟一の 天主にて坐ませむなり。

司祭麴餅と葡萄酒を捧ぐる時の禱 (十 頁)
 微唱禱

主よ、願くは主に献げし犠牲をして、我等に生命を與

へしめ、常に我等を強めしめ給はんことを。我等の主耶蘇基督に依て願ひ奉つる。亞孟。

序誦 (十二頁)

司祭典文を讀む時の禱 (十三頁)

司祭麴餅と葡萄酒に掩手する時の禱 (十四頁)

聖體奉舉の時の禱 (十五頁)

聖體奉舉後の禱 (十五頁)

主禱文 (十七頁)

神羔誦 (十八頁)

聖體を領くるを望む禱 (十八頁)

聖體受領の時の誦

我子よ、何ぞ我等に斯く爲したるぞや、視よ汝の父と我憂へて汝を尋ねたり。奚爲ぞ我を尋ねらるゝや、我は吾父の事に従はざるべからざると知れざるや。

聖體領後の禱

全能なる天主、我等恭しく主に求め奉つる、願くは主が其秘蹟に由て養ひたまひし儕輩の、聖意に適ふべき行爲を以て、主に仕へ奉つらんことを。我等の主 基督に依て一心冀ひ奉つる。亞孟。

掩祝の時の禱

(二十頁)

司祭々壇の左方に就き終りの福音を讀む時

の禱 (二十一頁)

聖會の爲の禱 讀唱彌撒の時に限る(二十二頁)

彌撒後の禱 (二十四頁)



○三王來朝後第二主日

耶蘇聖名之祝日

彌撒拜聽前之禱

(四頁)

彌撒之始之禱

(四頁)

入進誦

願くは 耶蘇の聖名には、天にも地にも地獄にも、總ての者の跪かんことを、萬の舌は 主なる耶蘇の、其父なる、天主の榮譽に坐すを宣揚んことを。(詩)天主、我等の最上なる主、主の聖名は、如何に全地に讚嘆せられし哉。

(榮誦) 願くは聖父と聖子云々

榮光之聖歌

(六頁)

集禱文

嗚呼 天主、主は世の救主として其惟一聖子を與へた

まひ、而して彼が 耶蘇の聖名を受くるを欲み給へり。願
くは主の愛憐に依て、我等をして此地上に、彼聖名を崇
め奉つりし後、天に於て親く拜謁し得るの幸福を享けし
め給はんことを、我等の主 耶蘇基督に依て願ひ奉つる。
亞孟。

主日之紀念

全能永遠の 天主、主よ最上の智慧を以て、天と地を
主宰したまふ。願くは主の民が誦へ奉れる所の祈願を、懇
切に聽き入れたまへ。又我等に、現世に於て、主の平和
を享有しめたまへ。我等の主基督に依て伏して之を願ひ

奉つる。亞孟。

使徒行傳 四章八節

維時ペトロ聖靈に満たされ、彼等に曰けるは、民の長
及び長老よ、我等が病たる人に行ひし善事に付き、誰の
名に於て、彼の癒されしかを、今日訊さるゝことあらむ。
我等汝等とイスラエルの凡ての民に之を語げん。汝等が
十字架に釘つけ、天主が甦らせたまひし我等の主、ナザ
レの 耶蘇基督の名に於て、汝等の前に立てる此人は癒
されけり。是れ即ち建築せし汝等より捨てられたる石
の、家屋の隅の首石となれる者なり、此他別に救あるこ

どなし。蓋は天下の人の中に、我等の依りて以て救はるべき他の名を賜はりし者あらざれをなり。

昇階誦

嗚呼、天主、我等の主、我等を援け給へ。願くは我等が主の聖名を祝し、主を讚美し奉つるの榮譽を享けん爲め、我等を多の國民の中より集めたまはんことを。主よ我等の父にして、又我等の救贖主たる者は主なり、主の聖名は永久ならん。

慶哉慶哉、我口は、主の讚美を宣揚げん、願くは萬の被造物は、主の聖名を祝さんことを。慶哉。

(四句節前第三主日以後は慶哉以)

主、軍隊の天主、願くは我等を改心せしめ、主の尊容を拜せしめたまへ、主の玉音を我等の耳に聴かしめ給へ、然らむ我等は救はるべし、蓋し主の玉音は清朗に、主の尊容は感嘆するに餘りわれを也。嗚呼 耶蘇よ、主の聖名は油の如くひろめらる、されむこそ幼童は主を愛し奉つるなれ。

聖路加福音書 二章二十一節

(聖主割禮祝日)

使徒信經

奉獻誦

主よ、我 天主よ、我れ心を盡して主を頌讚し、斷ぜ
ず主の聖名を謳歌し奉つらん、蓋し主は冥助を請ひ奉つ
る萬人に對して、温和、慈悲、愛憐より充されたまへ心
なり。慶哉。

司祭麴餅と葡萄酒を捧ぐる時の禱 (十 頁)

微唱禱

慈悲の 天主、願くは主の創造りたまひし萬物に、其
生命を與へたる主の祝福が、主の聖子、我等の主耶蘇基
督の聖名の榮譽に於て、我等の献げ奉れる此犠牲を祝聖

したまひ、依て以て主の稜威に適ひ、聖子の榮譽を揚げ、
我等の救靈を益し得んことを。我等の主基督に依て謹で
之を主に祈り奉つる。亞孟。

主日之紀念

主よ、願くは我等の献げ奉つれる供物を祝したまへ、我
等の罪科の汚點を淨めたまへ。我等の主耶蘇基督に依て
冀ひ奉つる。亞孟。

序誦

(十二 頁)

司祭典文を讀む時の禱

(十三 頁)

司祭麴餅と葡萄酒に掩手する時の禱 (十四 頁)

聖體奉舉の時の禱

(十五頁)

聖體奉舉後の禱

(十五頁)

主禱文

(十七頁)

神羔誦

(十八頁)

聖體を領くるを望む禱

(十八頁)

聖體受領の時の誦

主よ、願くは主の創造りたまひし萬の國民が、主の尊前に來りて俯伏し、主の聖名を頌讚せんことを。蓋は主は鴻大に坐せしめて、諸の妙績を成したまひ、又一體の天主にて坐せせむなり。慶哉。

聖體領後の禱

全能永遠の天主、主は我等を創造りたまひ、又我等を贖ひたまへり。仰ぎ願くは我等の祈願を聽許けたまへ。聖子 耶蘇の聖名の榮譽に於て、我等が主の稜威に獻げ奉つれる救贖の供物の犠牲を嘉し納め給ひて、之に由り我等をして、爰の下に 耶蘇の光榮なる聖名に由て、主の聖寵の恩澤を被りし後、永久の豫定に由て、其名の天國の籍に加へらるゝを樂ましめ給はんことを。我等の主 基督に依て一心に祈り奉つる。亞孟。

主日之紀念

主よ、願くは我等が主の聖祭を以て堅固にせられ、主の聖寵に由て、其約されたる福祉を享くるの準備をなさん爲め、主の勢威の功果をして、不斷我等に榮おしめ給はんことを。我等の主 耶蘇基督に依て冀ひ奉つる。亞孟。

掩祝の時の禱

(二十頁)

聖約翰福音書

二章一節

維時ガリレアのカナにて婚禮あり、耶蘇の母も其處に居り。耶蘇も亦弟子等と偕に其婚禮に招かれたり。然るに酒罄さければ、耶蘇の母 耶蘇に言けるは彼等酒な

し。耶蘇母に言たまはく、女よ、我と汝とに何かあらん、吾が時は未だ至らず、其母給仕人等に告らく、何にまれ彼が汝等に命ずる所を汝等爲せど。ユデア人の潔成禮に循ひて石甕六箇そこに列べあり、各箇二三斗を容る。耶蘇彼等に言たまはく、水を甕に滿せよと、彼等乃ち口まで之を滿せり。耶蘇彼等に言たまはく、今汝等汲みて亭主役に持ちゆけど、即ち之を持ちゆきぬ。亭主役水の酒に化したる者を嘗ひたりしが、奚自なるを知ざりき、(但し其水を汲たる給仕人は知れり)。是に於て亭主役は新郎を呼びて、之に言けるは、人は皆美酒を先づ進め、酔ふ

に及びてや、茲に惡き酒を「出すなり」、然るに汝は美酒を今まで留れけりど。是即ち奇蹟の始にして 耶蘇之をガリレアのカナに行ひ、以て其榮光を彰したまひけれむ、其弟子等「ますく」彼を信せり。

聖會の爲の禱 讀誦彌撒の時に限るの

(二十二頁)

彌撒後の禱

(二十四頁)

○三王來朝後第三主日

彌撒拜聽前の禱

(三頁)

彌撒之始之禱

(四頁)

入進誦

主を禮拜せよ、汝等は總て其天使なれをなり。シオンは其聲を聽て歡び、ユデアの民は太く喜び樂みぬ。(詩)主は其領國に入りたまへり、願くは大地は踊躍り、遠き島嶼は樂まんことを。

(榮誦) 願くは聖父と聖子と云々

榮光之聖歌

(六頁)

集禱文

全能永遠の 天主、太甚軟弱我等の上に御慈悲の眼を

注ぎたまへ、主の無上なる稜威の全能なる聖臂を伸して我等を援け給へ。我等の主 耶蘇基督に依て願ひ奉つる。亞孟。

聖保録與羅馬人書 十二章十六節

我兄弟よ、自己を智とする勿れ、惡を以て惡に報ゆる勿れ、神の尊前のみならず、凡ての人の前にも、意を注めて善を爲し、能し得べき所は、力を竭して衆人と睦み親むべし。我最愛する兄弟よ、自ら其仇を報ゆる勿れ、退きて怒の和ぐ時を待て。蓋は録して「復讐は我に在り、我必之を報いん」と、主の曰ひけれむ也。反て汝の仇若し

飢なむ之に食はせ、若し渴かむ之に飲ませよ、蓋し如此行すは炭火を彼の首に積むなり。然れむ汝等惡に勝たるを容す勿れ、唯善を以て惡に勝つことを勗むべし。

昇階誦

主よ、諸國民は主の聖名を畏れ、地上の王等は皆主の榮光を認めらん。是れ主はシオンを再興し、以て其榮光の内には現はれんとし給へむ也。

慶哉 慶哉、主は其領國に入り給へり、願くは大地は踊り、遠き島嶼は喜び樂まんことを。慶哉。

聖馬竇福音書 八章一節

維時 耶蘇、山を下りしに、群衆夥しく彼に従へり。癩病者來りて彼を拜し、曰けるは、主は若し欲せむ〔必ず〕我を淨むることを能したまふと。耶蘇手を伸べ彼に捫りて曰く、我欲す淨まれと、其癩病直ちに淨まれり、耶蘇彼に言たまはく、慎みて誰にも語る勿れ、惟往きて已を司祭に見せ、且彼等への證據にモイゼの命せし禮物を獻げよ。斯て耶蘇カフアルナウムに入りしに、百夫長かれに近きて願ひ、曰けるは、吾が僕癱瘋にて家に臥し太く苦めり。耶蘇彼に〔告て〕曰く、我往きて彼を醫さん。百夫長答て曰く、主よ、我は不肖にして汝を吾舎下に入

るに堪ず、惟言を出したまへ、然らむ吾僕は瘡ん。そは我も人の權下に立つ者なるが、亦我に屬する兵卒ありて、此に往けと曰へむ往き、彼に來れと〔曰へむ〕來り、又わが僕に此を爲せと〔曰へむ〕即ち爲せむ也。耶蘇之を聞て異み、己に隨へる者に言けるは、我誠に汝等に告ぐ、斯る信仰にはイスラエルの中に未だ値ざりし。我汝等に告ぐ、衆多の人々東西より來りて、アブラハム、イザアク、ヤコブと偕に天國に宴せん、されど國の子等は外部の幽暗に投いだされん、彼處には哭くこと及び切齒することあらん。耶蘇百夫長に云ふ、往け汝の信する如く汝

に成れど、恰も其時僕は愈ぬ。

使徒信經

(九 頁)

奉献誦

主の右の手は其權威を顯はせり、主の右の手は我を高めぬ。我は死なずして活さん。我主の處行を語り奉らん。

司祭麴餅と葡萄酒を捧ぐる時の禱 (十 頁)

微唱禱

主よ、願くは我等が此犠牲を祝するに堪へ得ん爲め、此神聖なる祭餅が我等の罪科を滅さんことを、主の僕婢等の躰軀と靈魂とを祝聖んことを。我等の主 耶蘇基督に

依て願ひ奉つる。亞孟。

序誦

(十二 頁)

司祭典文を讀む時の禱

(十三 頁)

司祭麴餅と葡萄酒に掩手する時の禱 (十四 頁)

聖躰奉舉の時の禱 (十五 頁)

聖躰奉舉後の禱 (十五 頁)

主禱文 (十七 頁)

神羔誦 (十八 頁)

聖躰を領くるを望む禱 (十八 頁)

聖躰受領の時の誦

人民舉りて 天主の口より出でし言を異めり。

聖體領後の禱

主よ、主は我等に斯る鴻大なる聖祭に與かるの聖寵を與へ給へり。願くは我等をして、其功果を享くるに堪へしめたまはんことを。我等の主 耶蘇基督に依て願ひ奉る。亞孟。

(二十頁)

掩祝の時の禱
司祭々壇の左方に就き終りの福音を讀む時

(二十一頁)

聖會の爲の禱 讀誦彌撒の時に限る(二十二頁)

彌撒後の禱

(二十四頁)

○三王來朝後第四主日

彌撒拜聽前之禱

彌撒之始之禱

入進誦

主を禮拜せよ、故等は總て其天使なれむなり。シオンは其聲を聽て歡び、ユデアの民は太く喜び樂みぬ。(詩)主は其領國に入りたまへり、願くは大地は踊躍り、遠き島

嶼は樂まんことを。

(榮誦) 願くは聖父と聖子と云々

榮光の聖歌

集禱文

(六頁)

嗚呼 天主、主は我等の脆弱して、我等を圍繞める危
難に抵抗ひ能はざるを知り給ふ。仰ぎ願くは我等の靈魂
と身軀とを強毅らしめたまひ、主の聖佑に由り、其罪科
に對して受くる處のものを凌がしめ給はんことを。我等
の主 耶穌基督に依て冀ひ奉つる。亞孟。

聖保錄與羅馬人書 十三章八節

我兄弟よ、汝等互に愛を負ふの他、凡ての事を人に負
ふこと勿れ、蓋は近倫を愛する者は律法を完ふすれ也。
寔に 神は我等を誡めて曰く、汝等奸姪する勿れ、殺す
勿れ、竊む勿れ、偽の證を立つる勿れ、他人の處有を貪
る勿れと、此他猶誡ありども、已れの如く其近倫を愛す
べしと言へる一言の中に含まる。愛は近倫を害はず、是
故に律法の完成せらるゝは愛に在り。

昇階誦

主よ、諸國民は主の聖名を畏れ、地上の王等は皆主の榮
光を認めらん。是れ主はシオンを再興し、以て其榮光の内

に現はれんとし給へんなり。

慶哉、慶哉、主は其領國に入り給へり。願くは大地は踊躍り、遠き島嶼は喜び樂まんことを、慶哉。

聖馬竇福音書 八章廿三節

維持 耶蘇小舟に乘けれん、弟子等之に従へり。視よ、大なる颶風起りて、其小船濤に蔽はる、底なるに、彼は寝たり。弟子等近づきて彼を醒して云ふ、主よ我等を救ひたまへ、我等没せんとす。耶蘇彼等に曰けるは、信仰薄き輩よど、頓て起て風と海に命せしかん、大に平靜になりぬ。是に於て人々異みて曰く、彼は何人ぞや、風も

海も彼に従へりど。

使徒信經

奉獻誦

(九 頁)

主の右の手は其權威を顯はせり、主の右の手は我を高めぬ。我は死なずして活さん。我主の處行を語り奉らん。

司祭麴餅と葡萄酒を捧ぐる時の禱 (十 頁)

微唱禱

全能の天主、願くは我等が獻ぐる供物をして、我等の汚穢を拔淨め、諸の惡事を防ぎ護り得るやう爲さしめたまはんことを。我等の主 耶蘇基督に依て願ひ奉つる。

序誦

(十二頁)

司祭典文を讀む時の禱

(十三頁)

司祭麴餅と葡萄酒に掩手する時の禱(十四頁)

聖體奉舉の時の禱 (十五頁)

聖體奉舉後の禱 (十五頁)

主禱文 (十七頁)

神羔誦 (十八頁)

聖體を領くるを望む禱 (十八頁)

聖體受領の時の誦

人民舉りて天主の口より出でし言を異めり。

聖體領後の禱

主よ、願くは主の賜物が我等を現世の娛樂より引離し、
而して常に天の凡ての滋養を以て、我等の力を補はんことを。
我等の主 基督に依て、肅んで之を主に願ひ奉る。
亞孟。

掩祝の時の禱 (二十頁)

司祭々壇の左方に就き終りの福音を讀む時の禱

(二十一頁)

聖會の爲の禱 讀誦彌撒の時に限る (二十二頁)

彌撒後の禱

(二十四頁)

百五十四

○三王來朝後第五主日

彌撒拜聽前之禱

(三頁)

彌撒之始之禱

(四頁)

入進誦

主を禮拜せよ、汝等は總て其天使なれむなり。シカンは其聲を聽て歡び、ユデアの民は太く喜び樂みぬ。(詩)主は其領國に入りたまへり、願くは大地は踊躍り、遠き島

喚は樂まんことを。

(榮誦)願くは聖父と聖子と云々

榮光之聖歌

(六頁)

集禱文

主よ、願くは主の綿々ける聖佑が主の眷屬を保持たんことを。彼等が主の天より降したまへる聖寵の希望にのみ倚頼する如く、彼等をして常に主の保護より導かるゝやう爲したまはんことを。我等の主 耶蘇基督に依て願ひ奉つる。亞孟。

聖保錄與哥羅西人書

三章十二節

百五十五

我兄弟よ、汝等神に選えらばれて、聖潔且愛せらるゝ者と爲りたれを、矜恤あはれみと温和おんわを着衣ついで、慈悲あはれみ、謙遜けんそん、節制せつせい、忍耐にんたいに充たされよ。汝等互たがひに容忍しのぶことをなし、若し人に責むべきことあらむ之を恕ゆるせ、主の汝等に恕したまへる如く、汝等互たがひに恕すべし、此諸の事に超て愛を守るべし、愛は衆徳の要なり、汝等耶蘇基督の賜ふ平和をして、其心を主らしめよ、汝等一躰いつたいに於て在らん爲め、此平和に招かれたり、宜しく恩に感すべし、基督の言を汝等の心に住めて充足らしめ、諸の智慧により、詩と歌と靈性的賦とを以て、互たがひに相教へ相勸め、恩に感じて、心より神の讚美

を頌ふべし。汝等が爲す處の諸事、或は言或は行、皆主なる耶蘇基督の名に於て之を爲し、彼に依て父なる神に感謝すべし。

昇階誦

主よ、諸國民は主の聖名を畏れ、地上の王等は皆主の榮光を認め、是れ主はシオンを再興し、以て其榮光の内うちに現はれんとし給へむなり。
 慶哉、慶哉、主は其領國に入り給へり、願くは大地は踊躍り、遠き島嶼は喜び樂まんことを。慶哉。

聖馬竇福音書 十三章廿四節

維時 耶蘇、一の譬喩を群衆に陳て曰く、天國は嘉種を其畑に播ける人のごとし。人々寝ねたる時、其敵來りつ、麥の中に稂莠を播て去れり。苗成長て實を結べる時稂莠もまた見れたり。奴僕等きたりて家父に言けるは、主よ、嘉種を畑に播ざりしや、さらん何處よりして此稂莠あるや、答て曰く、敵人これを爲せり。奴僕等かれに言けるは、吾等の往きて之を抜き集むるを欲するや、彼曰く、否恐くは汝等稂莠を抜き集むると偕に麥をも抜き、收穫まで兩ながら成長れけ、收穫の時、我刈者に言ん、先づ稂莠を聚めて、之を焚くために束ね、麥を心吾が倉に

收めよと。

使徒信經

奉献誦

主の右の手は其權威を顯はせり、主の右の手は我を高めぬ。我は死なずして活さん。我主の所行を語り奉らん。

司祭麪餅と葡萄酒を捧ぐる時の禱 (十頁)

微唱禱

主よ、我等茲に此償罪の犠牲を献げ奉つる。願くは之に由て、主の愛憐を垂れて、我等の罪科を赦したまひ、我等の動搖ける心を靜定たまはんことを。我等の主 耶蘇

基督に依て願ひ奉つる。亞孟。

序誦

(十二頁)

司祭典文を讀む時の禱

(十三頁)

司祭麴餅と葡萄酒に掩手する時の禱

(十四頁)

聖體奉舉の時の禱

(十五頁)

聖體奉舉後の禱

(十五頁)

主禱文

(十七頁)

神羔誦

(十八頁)

聖體を領くるを望む禱

(十八頁)

聖體受領の時の誦

(十八頁)

人民舉りて 天主の口より出でし言を異めり。

聖體領後の禱

全能の 天主、願くは此聖祭に於て、我等に契約せられたる 聖寵を與へ給はんことを。我等の主 耶穌基督に

依て願ひ奉つる。亞孟。

掩祝の時の禱

(二十頁)

司祭々壇の左方に就き終りの福音を讀む時

(二十一頁)

聖會の爲の禱

讀誦彌撒の時に限る(二十二頁)

彌撒後の禱

(二十四頁)

○三王來朝後第六主日

彌撒拜聽前之禱

(三頁)

彌撒之始之禱

(四頁)

入進誦

主を禮拜せよ、汝等は總て其天使なれむなり。シカンは其聲を聽て歡び、ユデアの民は太く喜び樂みぬ。(詩)主は其領國に入り給へり、願くは大地は踊躍り、遠き島嶼は樂まんことを。

(榮誦)願くは聖父と聖子と云々

榮光の聖歌

(六頁)

集禱文

全能の天主、願くは我等をして、不斷祇度の思慮より占有され、凡ての言語、凡ての行爲、一に主の聖旨に和はしめ給はんことを。我等の主 耶穌基督に依て祈り奉つる。亞孟。

聖保錄與帖撒羅尼人書第一 一章二節

我兄弟よ、我等常に汝等衆人の爲めに、神に感謝し、其祈禱の内に汝等を遺忘しことなし。是れ汝等の信仰に由て行ひ、愛に由て勞し、我等の主 耶穌基督を望むに因

て忍ぶことを、我等の父なる神の前にて、断す念ふが故なり。神に愛せらるゝ兄弟よ、我等又汝等の如何に撰むれしかを知るに縁る。我等が汝等に傳へし福音は、只言に由て宣べられしのみならず、権能と聖靈の徳と、篤き信仰に由りて伴はれたり。即ち我等汝等の中に在て、汝等の救靈の爲に働きたつゝ、爲せし行爲の如何なりし乎は、汝等の知る如し。且汝等大なる艱難の中に、聖靈の喜樂を以て道を受け、我等及び主に倣ひ、マセドニアとアカヤに在る凡ての信者の模範となれり。汝等が主の道を播めしは、番にマセドニアとアカヤのみならず、汝等が神

に向へる信仰は到處に祝せらる、是故に我等何事も言ふの要なし。是れ世人舉て我等の事を語りて、我等如何なる状にて汝等の中に在り、又汝等は如何に偶像の禮拜を廢て神に歸順り、活る眞の此神に事へ、彼が其聖子 耶蘇を天より遣るを待つかを言ふに因る。耶蘇は即ち神の、死者の中より甦りて、我等を、來らんとする怒より拯ひし者なり。

昇階誦

主よ、諸國民は主の聖名を畏れ、地上の王等は皆主の榮光を認めらん。是れ主はシオンを再興し、以て其榮光の内

に現はれんとし給へむなり。

慶哉、慶哉、主は其領國に入り給へり。願くは大地は踊躍り、遠き島嶼は喜び樂まんことを。慶哉。

聖馬竇福音書 十三章三十一節

維持 耶蘇は、群をなして已れに従へる衆人に向ひ、譬喩を以て語りて曰く、天國は人の取りて其畑に播く芥子種の如し、此れ萬の種の中にて、最も微き者なれども、其成長つに及びてや、萬の草よりも大きくて、天空の鳥、其枝に來り棲むほどの樹となる也。又他の譬喩を彼等に語りて曰く、天國は婦が取りて、三斗の粉の中に藏せむ、悉

く之を脹發するに至る麴酵の如し。耶蘇此等を心盡く譬喩にて群衆に語り、譬喩ならでは何を之に語らざりき。是れ預言者が言し事の成就せんためなり、曰く、我譬喩を以て口を啓き、世界の肇基より隠れたりし事等を説き出さんと。

使徒信經

奉献誦

(九 頁)

主の右の手は其權威を顯はせり、主の右の手は我を高めぬ。我は死なずして活さん。我主の處行を語り奉らん。司祭麴餅と葡萄酒を捧ぐる時の禱 (十 頁)

微唱禱

嗚呼 天主、願くは此供物が我等を淨め革め、且つ我等を導き護らんことを。我等の主 耶蘇基督に依て冀ひ奉つる。亞孟。

序誦

(十二頁)

司祭典文を讀む時の禱

(十三頁)

司祭麴餅と葡萄酒に掩手する時の禱(十四頁)

聖躰奉擧の時の禱(十五頁)

聖躰奉擧後の禱(十五頁)

主禱文(十七頁)

神羔誦

(十八頁)

聖躰を領くるを望む禱

(十八頁)

聖躰受領の時の誦

人民擧りて 天主の口より出でし言を異めり。

聖躰領後の禱

主よ、主は天上の珍羞を以て我等を養ひ給へり。願くは我等に眞の生命を與ふる此聖き食糧を、斷ず我等に熱望しめたまはんことを、我等の主 耶蘇基督に依て願ひ奉つる。亞孟。

掩祝の時の禱

(二十頁)

司祭々壇の左方に就き終りの福音を讀む時
の禱

(三十一頁)

聖會の爲の禱

(三十二頁)

彌撒後の禱

(三十四頁)

○四旬節前第三主日

彌撒拜聽前之禱

(三頁)

彌撒之始之禱

(四頁)

入進誦

死の悲愁は我を圍み、地獄の苦痛は我を繞れり。我は
我悲憂に際りて救援を 主に需め、主は其聖殿より我聲
を聞き給へり。(詩)主よ我主を愛し奉つらん、主は我力な
り、主は我保護者、我庇保者、我救援者にて坐ます也。
(榮誦)願くは聖父と聖子と云々

主憐み給へ。

基督憐み給へ。

各三回

主憐み給へ。

集禱文

主よ、願くは御慈悲に由り、主の民の祈願を聽容れた

まへ、聖名は光榮の爲めに愛憐を垂れたまひて、其正義に從て我等の罪科に課したまへる刑罰に對し、我等の悲しむを免れしめ給はんことを。我等の主 耶蘇基督に依て希ひ奉つる。亞孟。

聖保錄與哥林杜人書第一 九章廿四節(十章十一節)

我兄弟よ、汝等知らずや、馳場に走る者は、皆走れども、褒美を得る者は唯一人のみなるを。然れど汝等も之を得んは走るべし。凡て勝を競ふ者は、何事をも節へ憤むなり。されど彼等は壞れ易き冕を獲んが爲めに之を行ひ、我等は壞れざる冕を獲んが爲めに之を行ふ也。故

に我走るは定算なきが如きにあらす、我戦は空を撃つが如きにあらす、自己の肉軀を撃ちて之を服せしむ。是れ他人を教へて、自ら棄られんことを恐るれむなり。兄弟よ、汝等は左の事を知らざるべからず。夫れ我等の祖先は皆雲の下に在り、皆紅海を過ぎ、皆モイゼスの嚮導の下に、雲と海とにて洗を受けたり。皆同じく靈の食物を食ひ、靈の飲料を飲めり、(是れ彼等に從へる靈の磐の水より飲し也、此磐は即ち 基督なり) 然れど斯る多衆の中に、神の聖意に適へるは僅少なりき。

昇階誦

主よ、主は我等の必要と憂患とに際り、庇保者にて坐す也。願くは主を認知へたる人々の、主に於て願はんことを。蓋は主を求むる處の者を、棄て給ひしこと非れ也。抑祈求者は永久に忘られ、又は終始空しき憂患を忍ぶことは有らざらん。主よ、人間の主に勝つなきを示したまへ。

(詠唱) 我主に向ひて叫べり、主よ主よ、我聲を聴きたまへ。願くは主の僕の祈禱に對し、聖耳の聴からんことを。主よ、若し主が我等の不正を厳しく責め給はば、嗚呼我天主よ、誰か主の尊前に存し得ん。然れど主は寛容すこ

とを好し給へむ、我亦主の誠掟に従ひ、主の救援を待ち奉つる。

聖馬竇福音書 廿章一節

維時 耶蘇其弟子等に告げて曰く、天國は朝夙に出て、其葡萄園のために工者を僱ふ家父の如し。彼工者に一日一デナリヨを約して之を其葡萄園に遣はせり。彼三時ころ出て市に空く立てる者どもを見、之に言けるは、汝等も我葡萄園に往け、相當の者を汝等に與へんと。彼等の往ける後、亦六時と九時ころ出て、亦是の如くせり。十一時ころ復いで、他の立る者どもに遇ひ、之に言ふ、何

ぞ終日空く茲に立てるや。「答へて」曰く、我等を僱ふ者
 なきが故なり。家父すなはち彼等に告て曰く、汝等も
 吾が葡萄園に往け、黄昏になれるや、葡萄園の主その家
 宰に言けるは、工者を召び、後の者より始めて、先の者
 にまで、之が賃銀を給せよと。因て十一時より來れる者
 等先づ至りしに、各々一デナリヨを受たり。先の者ども
 亦至りしが、我等は必ず多く受るならんと思ひしに、已
 等も各々一デナリヨを受たり。受るや家父にむかひて吐
 き、言けらく、此等後の者どもは一時働きのみなるに、
 終日勞苦して暑熱を忍びし我等と彼等とを同じくしたま

ふ。彼その一人に答へて曰く、友よ、我は汝に不義をせ
 ず、汝は我ど一デナリヨの約をなしたるに非ずや、汝の
 分を取て去れ、我は此後の者にも亦汝のごとく與へんと
 欲す。我は我が欲する如くに行ふべからざるか、我善き
 が故に汝の目悪きや。是の如く後なる者は先になり、先
 なる者は後になるべし、召るゝ者は多けれど、選まるゝ
 者は少けれど也。

使徒信經

(九 頁)

奉獻誦

主を讚稱たてまつり、主の聖名の榮光を顯はすは善し。

嗚呼至高き天主哉。

司祭麴餅と葡萄酒を捧ぐる時の禱 (十頁)

微唱禱

主よ、我等の供物と祈禱とを嘉納たまへ。此神妙なる玄義に由て、我等の罪科を淨め給へ。主の慈愛を以て之を聽容れ給はんことを、我等の主 耶蘇基督に依て願ひ奉つる。亞孟。

序誦 (十二頁)

司祭典文を読む時の禱 (十三頁)

司祭麴餅と葡萄酒に掩手する時の禱 (十四頁)

聖體奉舉の時の禱 (十五頁)

聖體奉舉後の禱 (十五頁)

主禱文 (十七頁)

神羔誦 (十八頁)

聖體を領くるを望む禱 (十八頁)

聖體受領の時の誦 (十八頁)

主よ、主の僕に御慈悲の眼を注ぎたまへ。我を救ひ給へ。我已に主の聖佑を請ひたれを、願くは我惑亂せられざらんことを。

聖體領後の禱

主よ、願くは主の信徒が、主の賜物を以て堅固にせられ、依て以て之を享け奉つれる後も猶之を望み、且絶えず望みて、終りなく之を享け奉つるに至らんことを、我等の主 基督に依て、謹で希ひ奉つる。 亞孟。

掩祝の時の禱

(二十頁)

司祭々壇の左方に就き終りの福音を讀む時の禱

(二十一頁)

聖會の爲の禱 讀誦彌撒の時に限る

(二十二頁)

彌撒後の禱

(二十四頁)



○四旬節前第二主日

彌撒拜聽前之禱

(三頁)

彌撒之始之禱

(四頁)

入進誦

主よ、醒たまへ、何ぞ眠り給へるや、醒て我等を恒久に棄て給はざれ、何ぞ聖顔を背けたまふや、何ぞ我等の艱難を忘れ給へる。我等の靈魂は塵の中に打倒されぬ。主よ、醒め來りて我等を援けたまへ、我等を免したまへ。(詩)
主よ、我等は聞けり、我等が祖先の語れるを。

(榮誦) 願はくは聖父と聖子と云々

主憐み給へ。

基督憐み給へ。

主憐み給へ。

各三回

集禱文

嗚呼、天主、主は我等が其業務に一も信用を置かざるを見たまへり。願くは國民の博士の援助を以て、凡ての禍に對して、我等を強めたまはんことを。我等の主基督に依て願ひ奉つる。亞孟。

聖保錄與哥林杜人書第二 十一章十九節

我兄弟よ、汝等は智ある者にして、喜びて愚なる者を忍容ぶ。人若し汝等を奴隸とし、人若し汝等を啖ひ、人若し汝等を劫め、人若し汝等に驕り、人若し汝等の面を批つども、汝等之を忍ぶ也。我之を言ふを耻づ、此點に於て我等は餘りに懦弱りしことを知れむなり。猶汝等を導かんと欲する者、何ものか我同じく自榮り得ぬ處の或利益より自榮り得ん、(我が如此言ふは愚なるが如し)。彼等へブレア人なるか、我も然り。彼等イスラエル人なるか、我も然り。彼等アブラハムの裔なる乎、我も然り。彼等基督の使者なるか、我は猶かれに愈りて正しき使者なり。